

一般社団法人
建設コンサルタンツ協会 東北支部

JCCA TOHOKU

明日への風、
東北から



vol. **67**
支部だより 2023.10

目次

Vol.67

・ 巻頭言			
持続可能な国土の整備、維持管理を目指して……………	青森県 国土整備部長	永澤 親兼	1
・ 特集 世界遺産特集 東北の世界遺産（後編）			
世界自然遺産登録30周年「白神山地」……………	青森県 環境生活部	自然保護課	4
世界遺産「北海道・北東北の縄文遺跡群」御所野遺跡			
……………	一戸町教育委員会	世界遺産課 文化財係長	菅野 紀子
秋田の「北海道・北東北の縄文遺跡群」の魅力			6
……………	秋田県教育庁	生涯学習課 文化財保護室	
埋蔵文化財・世界文化遺産チーム	チームリーダー	袴田 道郎	8
・ 海外紀行			
マラウイ滞在記……………	八千代エンジニアリング(株)	佐藤 昌孝	10
・ 技術シリーズ 女性技術者の声			
建設コンサルタント業界について思うこと……………	(株)双葉建設コンサルタント	諏訪明日香	12
・ 技術シリーズ 若手技術者の声			
入社から2年間を振り返って……………	(株)建設技術研究所	村田 悠仁	13
・ 技術士合格体験記……………	三井共同建設コンサルタント(株)	齋藤 勇貴	14
……………	(株)復建技術コンサルタント	佐藤 大樹	15
……………	(株)建設技術研究所	斎藤 涼太	16
・ 私の趣味			
大人のスポーツゴルフ……………	(株)オリエンタルコンサルタンツ	高橋 慶伍	17
・ 名所旧跡			
国指定史跡名勝「南湖公園」の紹介……………	(株)長大	遠藤 敦	19
・ 話題			
AI技術を活用した交通事故分析手法「インフラDX」優秀賞（国土交通省）			
……………	(株)オリエンタルコンサルタンツ	林 祐志	21
みちのく i-Construction 奨励賞			
河川改修工事に伴う3橋架替え事業における3次元VR空間技術の活用			
……………	八千代エンジニアリング(株)	阿部 雅史	22
建設技術公開 EE東北'23について……………	(株)ダイエツ	樋口 章大	23
令和5年度 東北支部会員 東北地方整備局 優良業務表彰について……………			27
・ セミナー／発表会報告			
令和4年度 環境専門委員会セミナー開催報告			
……………	技術部会 環境専門委員長	樋村 正雄	35
第21回（令和4年度）高校生「橋梁模型」作品発表会の開催報告			
……………	総務部会長	長南 憲一	37
・ 新規会員の紹介			
創業50年・そして未来へ向けて……………	(株)三洋コンサルタント	岩手営業所	大澤 公延
・ 委員会紹介			
技術部会の紹介……………	技術部会長	松尾新二郎	40
技術部会 インフラメンテナンス専門委員会紹介			
……………	技術部会 インフラメンテナンス専門委員長	尾崎 裕司	42
・ 我ら、建コン若手の会！			
2023年度の活動方針及び体制について……………	総務部会若手の会 委員長	小田嶋健太	43
・ 支部活動報告			
令和5年度支部定時総会……………			44
9月1日「災害時対応演習」を実施……………			45
令和5年7月の大雨に伴う「災害協定」対応状況について……………			46
・ 支部だより……………			47
・ JCCA TOHOKU 寄稿文募集……………			52
・ 令和5年度 講演会のお知らせ……………			53
・ 東北支部 会員名簿……………			54
・ 編集後記……………	広報委員	長谷川 悟	56



持続可能な県土の整備、維持管理を目指して

青森県 県土整備部長 永澤 親兼

まず、本年6月からの梅雨前線による大雨により犠牲となられた方々にお悔やみを申し上げますとともに、被災されたすべての方々に心よりお見舞いを申し上げます。

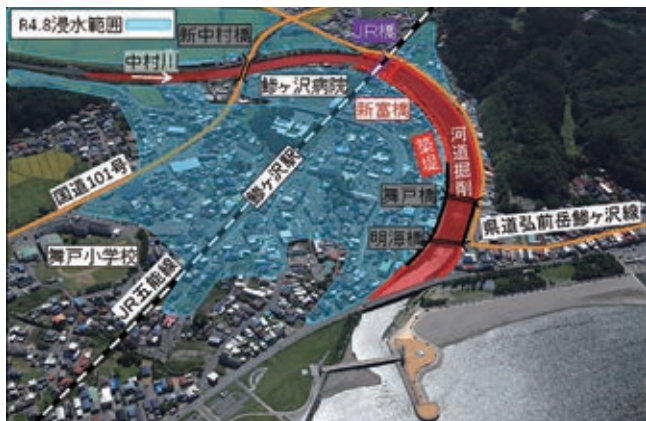
また、一般社団法人建設コンサルタント協会東北支部の皆様には、日頃から本県の県土整備行政の推進に多大なる御尽力をいただき厚く御礼申し上げます。

はじめに

県土整備は非常に長い時間が必要な取組であることを踏まえ、大きな目標として「10年度、30年度、さらには100年先まで持続可能な県土の整備、維持管理を目指して」取り組んでいます。

1 安全・安心の確保、県民の命と暮らしを守る

去る7月の大雨では本県でも災害が発生したところです。昨年、一昨年も、県内各地で大きな災害が発生しました。特に昨年8月の大雨では、津軽地方を中心に甚大な被害となり、道路や河川などの公共土木施設の被災箇所数（539箇所）、被害額（約144億円）とも、直近20年で最大となりました。県民が一日でも早く安全、安心な生活を取り戻せるよう、被災した施設の早期復旧を図るべく、災害復旧工事を鋭意進めています。



中村川 河川激甚災害特別緊急事業

鱈ヶ沢町の中村川流域では、河川からの溢水に内水氾濫も加わり、市街地において300戸を超える浸水被害

が発生しました。

中村川では、これまでも河川改修を進めていたところですが、昨年の被害を受け、河川激甚災害対策特別緊急事業を核とした「中村川緊急治水対策プロジェクト」を策定しました。令和8年度までの5年間で災害復旧事業を含めた総額66億円を投じて、緊急的かつ集中的に対策を進めていくほか、二度と同様の被害を生じさせないため、流域治水の取組を重点的に進める「中村川流域治水緊急対策推進会議」を設置しました。会議で検討・策定したハード・ソフト一体となった緊急対策メニューについて、関係者とともに、実施していくこととしています。

2 青森県の経済と産業の発展を下支えする

県民の誰もが安心して暮らしていくことができる持続可能な地域づくりを着実に進めていくためには、「生業」と「生活」が循環する「経済を回す」仕組みが重要であり、これを下支えする基盤として最も重要なのは、道路ネットワークの整備です。



国道279号（下北半島縦貫道路）整備事業

青森県では、主要な都市のうち青森市と八戸市、むつ市が、高規格道路のネットワークで結ばれていないことから、一日でも早くネットワークを繋げるということを念頭に道路整備に取り組んでいます。

むつ市と国道4号とを結ぶ高規格道路の下北半島縦貫道路については、昨年度、全線事業化されました。近い将来、東京から下北地域までが一本の高規格道路

で結ばれることとなり、下北地域の産業等のさらなる発展につながるものと期待しています。これまで全体の41%を供用していますが、これに加え、むつ東通ICから（仮称）奥内ICまで及び「道の駅よこはま」に直結する（仮称）横浜ICから横浜吹越ICまでの区間について、用地取得や軟弱地盤対策に目処がついたことから、令和7年度を供用目標とする旨の公表をしました。当該区間が完成すれば、供用率が約61%と飛躍的に向上します。

3 若者があこがれる魅力的な建設業へ変革する

建設業は、インフラの整備や維持管理に加え、除雪や災害対応を担うなど、県民の生活を守る地域の守り手として必要不可欠な存在ですが、人口減少に伴って、建設業に入職する若者の数自体もある程度減ってしまうのは避けられないことです。

人口減少時代においても建設業界が持続していくためには、「担い手の確保」と「生産性の向上」の両面の取組が必要になると考えています。

「担い手の確保」については、土木に関する人材育成や広報の実施に当たり、本県出身の学生が多く在籍する土木系の主要大学や工業高等専門学校（高専）との間でパートナーシップ協定を締結し、確実に伝わる情報基盤を構築したほか、高専生や大学生には、学校と連携し「座学と実務のマッチング」を主眼とした授業を展開しています。

未来の担い手となる小中学生には、「楽しく親しみやすい」教材を作成し、インフラに関する出前授業を行っています。昨年度は、県と地元アイドル事務所の有限会社リングミュージックとの間で協定を締結し、インフラ広報動画に「りんご娘」などの地元アイドルに出演いただき、ネット配信したところ、動画の閲覧数が従来の県単独での発信に比べて大幅に増加したほか、多くのメディアに取り上げられるなど、協定による効果が大きく表れたものと感じています。

また、女性の入職を促進するため、官民の女性建設技術者等で構成される「女性建設技術者ネットワーク会議」と連携し、災害復旧現場における現場見学会や建設女子のためのキャリアセミナーを開催しているほか、知事と女性建設技術者との座談会の模様など、建設業における女性活躍を新聞広告により広く情報発信

しています。

「生産性の向上」については、建設業界の皆さんと共に、県内建設業におけるICT施工、DX等の一層の普及・促進を図っていかねばならないと考えています。これらを積極的に取り入れることで、建設業界の「きつい」「きたない」というイメージを払拭し、魅力的な建設業へと変革することにより、若い人が建設業界に興味を持ってくれるよう、取り組みます。



ICT 施工講習会

4 誇りを持って働ける県土整備部を作る

職員が働きやすい職場として、仕事だけでなく生活や家庭も大事にしながら働ける職場環境を作りたいと考えています。また、職員が自信を持って業務に従事することができるよう、自己研鑽（資格取得へのチャレンジ）を励行しているところです。そういったことも情報発信し、若い人たちに有力な就職先の選択肢として青森県庁の県土整備部が認識されるように取り組みます。

おわりに

県民の安全・安心な生活を継続して守っていくためには、持続可能な県土の整備、維持管理は欠かせないものであり、貴協会及び会員の皆様の優れた技術が不可欠であります。

これまで、災害発生時には早急な測量・設計など、協力いただいておりますが、今後とも皆様の御支援、御協力をよろしくお願い申し上げます。

世界遺産特集 東北の世界遺産（後編）

世界遺産は、「顕著な普遍的価値」を有する文化遺産や自然遺産などであり、1972年に成立した世界遺産条約に基づき、世界遺産リストに登録された物件を指します。

世界遺産条約はユネスコ成立以前、20世紀初頭から段階的に形成されてきた国際的な文化財保護の流れと、国立公園制度を最初に確立したアメリカ合衆国などが主導してきた自然保護のための構想が一本化される形で成立したものであり、登録される物件は不動産、つまり移動が不可能な土地や建造物に限られます。そのため、たとえば寺院が世界遺産になっている場合でも、中に安置されている仏像などの美術品（動産・可動文化財）は、通常は世界遺産登録対象とはなりません。ただし、東大寺大仏のように移動が困難と認められる場合には、世界遺産登録対象となっている場合があります。逆に、将来的に動産になる可能性があると判断される場合、推薦時点で不動産であっても認められないことになっています。

日本における世界遺産登録は、平成5年に「法隆寺地域の仏教建造物」（奈良県）が第1号に認定され、令和5年1月現在で25の登録認定がなされております。



東北における世界遺産登録

平成5年に自然遺産登録された「白神山地」、平成27年、「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」の「橋野鉄鉱山跡」、令和3年に文化遺産登録された「北海道・北東北の縄文遺跡群」三内丸山遺跡（青森市、特別史跡）、小牧野遺跡（青森市）、是川遺跡（八戸市）、亀ヶ岡石器時代遺跡（つがる市）、田小屋野貝塚（つがる市）、大森勝山遺跡（弘前市）、ニッ森貝塚（七戸町）、大平山元I遺跡（外ヶ浜町）、御所野遺跡（一戸町）、大湯環状列石（鹿角市、特別史跡）、伊勢堂岱遺跡（北秋田市）が挙げられます。

JCCA TOHOKUでは、前後編に分けて、東北の世界遺産を紹介いたします。66号では前編として、平泉文化、橋野鉄鉱山遺跡、「北海道・北東北の縄文遺跡群」、をご紹介いたしました。引き続き本号67号では、白神山地、御所野遺跡、伊勢堂岱遺跡・大湯環状列石をご紹介いたします。



世界自然遺産登録 30 周年「白神山地」

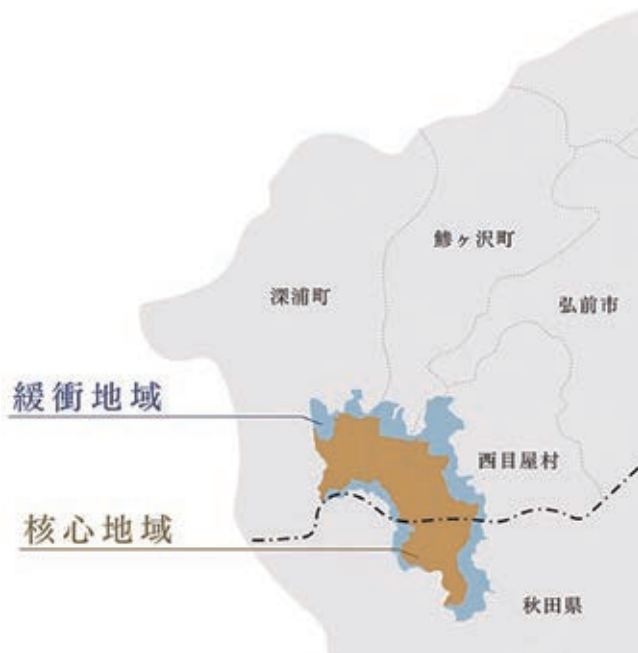


青森県環境生活部自然保護課

1. 白神山地とは

白神山地は、秋田県北西部と青森県南西部にまたがる約13万haに及ぶ広大な山地帯で、このうち人の影響をほとんど受けていない原生的なブナ林で占められている約1万7,000haのエリアが、1993年に日本初の世界自然遺産として登録されました。

白神山地は都市から遠く離れ、険しい地形で囲まれていることが幸いし、自然の生態系が守られてきました。そのため、ブナを中心にイヌワシ、ツキノワグマ、ニホンカモシカ、アオモリマンテマなど、多種多様な動植物が暮らす生き物たちの楽園となっています。



- 核心区とは、白神山地の自然や動植物の生態系を守るため、人が足を踏み入れることを制限しているエリア。
- 緩衝地域とは、核心区への外からの影響を和らげるために設けられたエリア。

2. 白神山地の保全

世界自然遺産地域は、その自然環境を将来にわたり適切に保護していくため、国、県及び関係市町村が役割分担し、連携して保全・管理を行っています。

3. 白神山地の楽しみ方

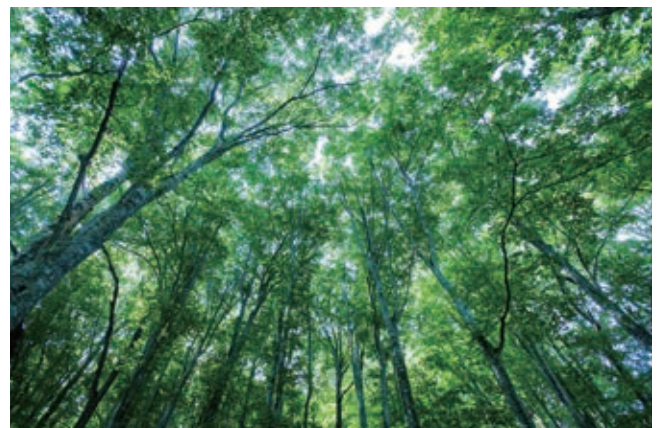
(1) 白神山地ビジターセンター

白神山地のブナ林のしくみや生態系の展示紹介のほか、白神山地での自然観察会の実施などにより、自然保護意識の普及啓発を図っています。



(2) 世界遺産の径ブナ林散策道（西目屋村）

世界自然遺産登録地域内に設置された遊歩道で、白神山地の自然環境・ブナ林を体感できる散策コースです。1周約2kmで所要時間は、1～2時間程度です。

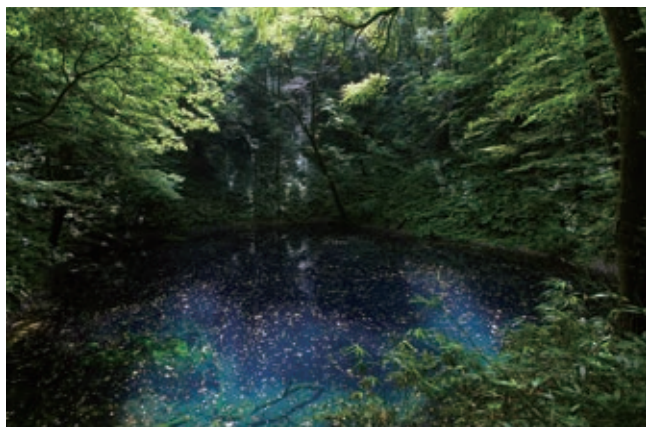


(3) 白神の森遊山道（鱒ヶ沢町）

ブナやミズナラなどの広葉樹や多種多様な花の植生が豊かな森の景観を楽しむことができるトレッキングコースです。白神の森を知りつくした個性豊かなガイドの案内を楽しめます。

(4) 十二湖（深浦町）

白神山地の西側に位置する十二湖は、1704年の大地震によって川がせき止められて形成されました。33の湖沼がブナの森に点在していますが、山の中腹から眺めると、大きい池が12見えたことから「十二湖」と呼ばれるようになりました。



十二湖の湖沼で最も人気のある「青池」

(5) 体験プログラム予約サイト「白神カレンダー」

白神カレンダーは、白神山地やその周辺地域で開催される体験プログラム等を1か所に集めたポータルサイトです。



4. 企業向け環境保全研修プログラム

青森県では、白神山地地域の持続的発展を目的に、白神山地を「学びの森」と位置づけ、企業に対して生態系の理解を深める学習機会と、課題解決の試行の場を提供する研修プログラムを開発しました。

このプログラムは、社会の発展のために必要となる自然科学を学び、自然環境や生態系の保全に主眼を置いて課題解決を探ることで、組織や人材の成長を図るものとなっています。

○プログラム例

時間	訪問先	内容
【1日目】 10:00	アオーネ白神十二湖 ヤマセ三新緑館	集合：歓迎の挨拶と研修プログラムの説明
10:10- 10:40	白神十二湖 エコ・ミュージアム	展示：「白神山地」の自然 展示物と解説により十二湖と「白神山地」の概要を学ぶ
11:00- 12:40	十二湖 及びブナ自然林	森と湖の歌謡：「白神山地」の森を歌謡～ブナの森と湖を知る 十二湖周辺の動植物、ブナの森や生態系、ドングリの木が枯れてゆくナラ枯れ、マダギの文化などを学ぶ
13:30- 15:30	深浦町の海岸 (岩崎海岸、 釜内川河口など)	展示：「白神山地」と対馬海流がもたらす恵みと藻類物 生態系する魚類と海藻や海の藻類物もたらす問題を学ぶ 海辺の観察：藻類物で知る「白神山地」の現状と課題 船に分かれて藻類ゴミを採取し傾向を調べる
16:00- 18:00	アオーネ白神十二湖 ヤマセ三新緑館	屋内ワークショップ：「白神山地」のためにできること 人材育成プログラムとして、学びと体験を振り返り、課題解決のアイデアを出し、翌日の取り組み内容を決める
【2日目】 9:00- 12:00	深浦町の海岸	野外ワークシート：課題解決の試行 前日の議論を通して決めた取り組みを行い、手帳や改善点を 探りブラッシュアップ
13:00- 14:45	アオーネ白神十二湖 ヤマセ三新緑館	まとめ：振り返りと発表 発表後に記念撮影と閉会挨拶

5. 最後に

世界自然遺産登録30周年を記念して、青森県内では様々なイベントが実施されています。

これを機会に、是非、世界自然遺産白神山地へお越しください。

○下記サイトに記念イベント等の情報を掲載
特設ホームページ「<https://shirakami30.jp>」



世界遺産「北海道・北東北の縄文遺跡群」御所野遺跡

一戸町教育委員会 世界遺産課 文化財係長 菅野紀子

1. はじめに

令和3（2021）年7月27日、御所野遺跡を含む「北海道・北東北の縄文遺跡群」が世界遺産登録された。

「縄文遺跡群」は、北海道・青森県・秋田県・岩手県に所在する17遺跡で構成される。また、「縄文遺跡群」の理解の一助となる関連資産2遺跡が、北海道と青森県に所在する。御所野遺跡は「縄文遺跡群」の南端に位置し、いわば「南の玄関口」にあたる。



2. 「北海道・北東北の縄文遺跡群」の世界史的な価値

「一万年以上にもわたる長期間、豊かな森林資源・水産資源を背景に、採集・漁労・狩猟を基盤として営まれた定住社会」という縄文文化の特質は、同時期の世界各地で一般的とされる農耕・牧畜を基盤とする定住とは異なる人類社会のあり方である。「北海道・北

東北の縄文遺跡群」は、このような特質を有する世界的にも稀有な資産であり、たぐいまれな精神性を含む生活のあり方や自然環境の変動に応じて変容させた集落の立地と構造を示す遺跡群である。この点が世界遺産と認められた縄文遺跡群の価値の大きなポイントである。



御所野遺跡

ここでは、「縄文遺跡群」の構成資産の一つである御所野遺跡の概要と、御所野遺跡における特徴的な取り組みについて紹介したい。

3. 御所野遺跡の概要

御所野遺跡は、岩手県の内陸北部の一戸町に所在し、八戸湾へ向かって北流する馬淵川に注ぐ二つの支流に挟まれた標高約190～200mの河岸段丘上に立地する。東西約500m、南北約120mの細長い段丘上のほぼ全面に遺跡は広がる。縄文時代中期後半、「縄文遺跡群」の集落展開及び精神文化に関するステージ区分のうち、拠点集落が出現する定住の発展期後半（ステージⅡb）に位置づけられる。堅果類などの森林資源に恵まれ、墓域と祭祀場を伴う拠点集落遺跡である。



中央ムラの配石遺構群

縄文時代中期の終わりごろには、遺跡中央に形成された配石遺構群を中心とし、遺跡の東・中央・西の3つの居住域が広がっていたと考えられる。遺跡中央の人為的に削平された平坦面に東西2つの環状の配石遺構群が構築されたと考えられる。配石遺構に伴う下部遺構の詳細は不明だが、土坑墓を伴う可能性がある。この配石遺構と土坑墓の外側には、竪穴建物跡や掘立柱建物跡などが位置し、重環状の集落構造を呈する。



クリ林と土屋根建物（復元）

クリやクルミ、トチノキなどの炭化種実や、シカやイノシシなどの焼骨片、木の実などの加工や狩猟に用いられた道具類、建築材として利用されたクリの炭化材などの出土遺物からは、御所野遺跡に生きた縄文時代の人々が有用で多様な森林資源を選択的に利用していた様相がうかがえる。

4. 御所野ムラの暮らしを探る

近年は、発掘調査で見つかった資料などをもとに、縄文時代のムラとその周辺の景観を復元し、そこから得られる資源を博物館の体験活動などに活用する「縄

文里山づくり」という循環型の取り組みを進めている。縄文人が暮らしに必要な糧（食糧や建物の建築材、生活道具の材料など）を得やすくするために、集落周辺の森林などを改変した生態系は「縄文里山」と呼ばれる。地域やボランティア団体のみなさん、御所野愛護少年団、研究者の方々などとも連携して研究を進め、御所野ムラで生活していた縄文時代の人々の季節ごとの暮らしをまとめた「御所野縄文里山カレンダー」は、一戸町のSDGsの取り組みのベースともなっている。



シナノキまるごと体験（シナノキの繊維でコースターをつくる）



御所野縄文里山カレンダー

5. おわりに

様々な自然環境の変化や影響を受けながらも、しなやかに適応し、強く生き抜いた人々の知恵。「縄文遺跡群」が所在する地域は、縄文時代から続く在来知が脈々と受け継がれてきた地域でもある。過去の文化が内容を変えながら受け継がれ、現在のわたしたちにとっての伝統文化へとつながり、そして、それは未来社会を考えるとときの重要なヒントとなる。

そのような「未来を開く縄文」が息づく岩手県一戸町・御所野遺跡へ、ぜひ来訪いただきたい。

秋田の「北海道・北東北の縄文遺跡群」の魅力

秋田県教育庁 生涯学習課 文化財保護室 埋蔵文化財・世界文化遺産チーム
チームリーダー 袴田道郎

令和3年7月、念願叶い「北海道・北東北の縄文遺跡群」が世界遺産へ登録されました。平成18年、秋田県は「ストーンサークル」について提案書を提出。平成19年に「青森県の縄文遺跡群」と合流、北海道と岩手県も加わり4道県による世界文化遺産への活動が始まりました。平成20年にユネスコ世界遺産暫定一覧表に記載。平成27年には構成資産の見直しがありました。令和元年に推薦が決定。令和2年にユネスコに推薦書を提出し、同年秋に新型コロナウイルス感染症による渡航制限の中でしたがイコモスの現地調査を実施。令和3年5月ようやく世界遺産一覧表への記載が適当との勧告を受けることができました。

秋田県からは鹿角市の「特別史跡大湯環状列石」と北秋田市の「史跡伊勢堂岱遺跡」が登録となりました。両遺跡は共に縄文時代後期、今から約4,000年前の遺跡で、環状列石（ストーンサークル）が特徴です。

大湯環状列石は南北に並ぶ2つの環状列石を持ち、北側の万座環状列石は径52mあり日本最大級です。縦に据えた細長い石を中心に放射状に石を配した「日時計状組石」が知られており、この組石と2つの環状列石の中心が一直線に並び、その延長線上に夏至の日没が重なっています。なにか特別な意味があり、美しい日没を眺めながら縄文人はきっとここで祭りを行っていたのでしょう。



また、魅力のひとつに出土品の土版があります。土版の表裏につけられた穴は、1から6までの数字になっており、縄文時代の双六？ などと言われていますが、その見た目が可愛い。「どぼんくん」の愛称で親しまれ、隣接する大湯ストーンサークル館に展示されているのでぜひご覧ください。



伊勢堂岱遺跡は、見晴らしが良い丘の北西端に4つもの環状列石が隣接しているのが特徴で、他にこのような例はありません。



この環状列石を背に、世界自然遺産である白神山地の秀麗な姿を眺望できるのが大きな魅力です。また、遺跡の下を流れる湯車川にはサケが遡上し、秋口に訪れるとパシャパシャと音を立てる姿が見られます。きっと縄文時代から同じ光景が続いているのでしょう。平成6・7年に大館能代空港開設に伴うアクセス道路建設のために発掘調査が行われ、その貴重さから路線変更し現地に保存されることになりました。資料館の伊勢堂岱縄文館から遺跡への道沿いに道路の橋脚が残されており、工事が迫っていたことが窺えます。こちらにも魅力的な板状土偶があります。展示されている土偶コーナーは圧巻で、市内の遺跡から出土した様々な土偶を一同に見ることができます。何故こんな様々な姿で作ったのだろうと驚きと好奇心を呼び起こされます。



両遺跡とも世界遺産として整備が進み、針葉樹に替え広葉樹を植えるなどの取り組みで、縄文時代の風景を復元しています。縄文人が何故環状列石を作ったのか、この地で何をしていたのか、本当の回答は見つかっていません。当地を訪れて、縄文時代の光景が広がる景色を眺め、自由に思いを馳せていただくと幸いです。

マラウイ滞在記

八千代エンジニアリング株式会社 佐藤 昌孝

1. はじめに

私は現在、日本政府による無償資金協力プロジェクト「リロングウェ市内における変電所改修計画」の常駐監理技術者として、マラウイの首都であるリロングウェに滞在中であり、2024年の完工まで約1年間滞在する予定である。マラウイ滞在中の所感を記したい。

2. マラウイの基本事項

マラウイは、アフリカのタンザニア、ザンビア、モザンビークの3国に囲まれた、約11.8万平方キロメートル（日本の約1/3）の南北に細長い内陸国であり、北東に位置するマラウイ湖がその1/5を占める。人口は約2,041万人（日本の約1/6）、GDPは約1.3億US\$（日本4.2兆US\$の約1/300）、一人当たりGDPは約645US\$（日本約33,800US\$の約1/50）（いずれも2022年世界銀行）と世界の最貧国の一つである。労働人口の7割近くが農業関連に従事しており、主食であるメイズ（トウモロコシ）の他、タバコ、紅茶、砂糖、ナッツなどが栽培されている。



マラウイ位置図（外務省）

気候については、一般にアフリカというと厳しい暑さを想像するが、リロングウェは標高約1,000mの高地であり、最も暑い時期でも最高気温は20～30℃、内陸国のため湿度もあまり高くなり、東京の夏ほどには暑くは感じない。

日本からマラウイへの直行便はなく、エチオピアや

南アフリカ等を経由し渡航することとなる。エチオピア航空の場合、日本からエチオピアまで16時間、さらに乗り継いでエチオピアからマラウイまで4時間かかる。日本からの渡航にはハードルが高い国である。

3. 食事

リロングウェ市内には小奇麗な西洋風レストランが想像以上に多い印象である。加えて、中華料理、韓国料理、インド料理もあり、食事には困らない。一方、日本食レストランはまだ進出していないようだ。

ローカルレストランも魅力的である。写真はローカルチキンとシマ（トウモロコシの粉をお湯で練って餅状にしたもの）。日本人が米にこだわりを持つように、マラウイ人は「マラウイのシマが一番」と口をそろえている。味は淡白で、肉、魚、野菜、どんな料理とも合う。ローカルチキンは、日本の地鶏のような弾力があり、鳥自体のジューシーなうま味がシンプルな塩味とよく合い、病みつきになる。



シマ（左）とローカルチキン（右）

4. The Warm Heart of Africa

マラウイは、しばしばThe Warm Heart of Africa（アフリカの温かい心）と呼ばれ、その人々の心優しさから、世界で最も見知らぬ人に親切な国のひとつに選ばれている。私が初めてマラウイを訪れた時、誰もがとても親切にしてくれることに感動したのだが、この言葉を聞いてずっと腑に落ちた。そんなマラウイに惚れ込み移住する外国人も少なからずいるようで、

The Warm Heart of Africaはマラウイ人の誇りでもある。

イギリスのハートフォードシャー大学が調べた研究によると、マラウイは世界一歩くのが遅い国であることが分かったそうだ。その結果は最下位を意味するのではなく、The Warm Heart of Africaの心の豊かさを象徴するものと私は考えている。



木陰で井戸端会議をするリロングウェ市民

5. プロジェクトの概要

ここで、プロジェクトの背景や実施内容について触れておきたい。リロングウェではマラウイ電力会社（ESCOM）の資金不足により、老朽化した変電設備の更新が間に合わず、慢性的な電力供給不足が続いている。また、発電電力量の8割以上が水力発電であるとおおり、電力のほとんどを水資源に依存しているため、マラウイの電力は気候変動に対してぜい弱である。マラウイは2017年の干ばつ、2022年のサイクロンにより、大規模な停電や致命的な水力発電所ダムの損壊を経験している。

今回のプロジェクトは、上記の電力供給不足を改善するため、リロングウェ市内にある2か所の変電所を改修するものである。新たに調達する変圧器6台（合計200MVA）は、リロングウェの全変電所の約35%の変圧器容量に相当し、約8万世帯の新規需要家に接続することが可能になるとESCOMは表明している。

6. マラウイの未来を担うエンジニアの挑戦

ESCOMのエンジニアは誠実な印象である。マラウイの電力供給は、毎日早朝から働くエンジニア、土日も返上して不具合に対処するエンジニアにより支えられている。真面目なエンジニアが多くいるにもかかわらず、なぜ問題が続くのか考察したところ、ある仮設

が浮上した。

現状、エンジニアは主要な変電所にしか常駐していない。小さな変電所では時間ごとの配電データを記録しておらず、記録をする代わりに過去の実績や経験を頼りにしている。配電データは、電力需要の増加傾向を把握し、最適な設備投資を計画する上で重要な情報であるが、現状のままでは、過負荷になり、停電や機器損傷が発生してから対処するという対症療法的な対応しかできない。また、設備増強の調達資金を援助機関に要請するものの、配電データを記録していないため、援助機関に設備増強の必要性、緊急性を客観的に説明することが難しくなる。なぜ彼らがこれほど重要な記録を取らないのか考えたところ、それは、記録を取ったとしてもすぐに交換・修理できる資金がなく、作業が報われないためではないか、という思いに至った。事実、資金不足にも深刻な問題がある。需要家による電気料金の未払い問題が、設備投資の足かせとなるほどの金額に膨らんでいる。ESCOMは適切な設備投資を行うために、電気料金の回収に適切に対応し、逆ザヤとなりつつある状況を改善していかなければならない。負の連鎖は一度に解決することはできず、長い年月と努力により一つずつ改善していく必要がある。



リロングウェ市内の夜の様子（左）
マラウイ電力会社による運用・維持管理の様子（右）

7. おわりに

マラウイの首都であるにもかかわらずリロングウェ市内の夜は暗く、街灯のない道路が未だに多い。プロジェクトには終わりがあるが、エンジニアにとっては次の課題への挑戦の始まりである。彼らには、日々、良質な電気を届け、人々の生活を豊かにし、マラウイの経済をけん引していく責務がある。いつかESCOMが負の連鎖から脱却し、彼らの日々の努力が報われる日が来ることを私は切望する。そして、その瞬間をもし見届けられることができるのであれば、それは私にとってこの上なく幸せなことである。

建設コンサルタント業界について思うこと

株式会社双葉建設コンサルタント 諏訪 明日香

1. はじめに

今年で入社3年目になります。大学時代は主に都市計画やまちづくりを学んでおり、入社してからは道路設計、橋梁補修設計等の設計業務に携わっています。まだまだ技術者として未熟ではありますが、上司や先輩方のお力添えのおかげで少しずつできることが増え、成長とやりがいを感じられるようになってきました。

今回は貴重な機会をいただきましたので、建設コンサルタント業界について思うことを述べさせていただきます。

2. 変化

学生時代との大きな変化といえば、仕事中心の生活になったことです。日常の中で、自然に自分の携わる業務と関連したものに目が行くようになりました。学生時代は何気なく見過ごしていた部分を、どのような工程を経て、どのような構造になっているのか興味を持つようになりました。また、これまでに業務を通して学んだことやこれから携わる業務に使えるものはないか、ふと探してしまうこともあります。学生時代に訪問した旅行先での構造物や街並みについて、もっとよく見てくるべきだったと今では後悔しています…。

3. 魅力とやりがい

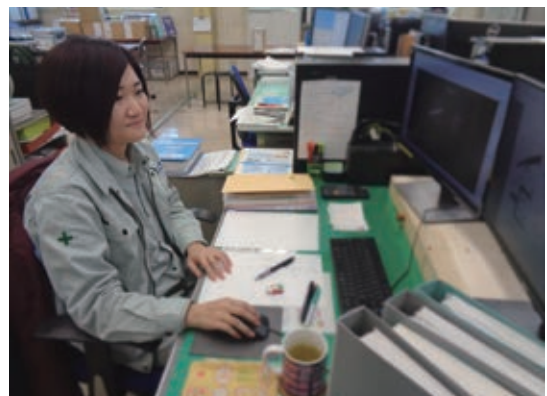
この仕事の魅力とやりがいは、橋梁や道路という人々の生活に必要不可欠な社会基盤をつくること、直すことに貢献していることだと感じています。部分的であっても自分が設計したものが地図に載り、利用してくれる人がいるということに喜びを感じ、モチベーションにも繋がっています。また、顧客の望んでいること、本当に必要なことを汲み取って形にすることにもやりがいを感じられると思います。

4. 業界について

やりがいや誇りを感じながら仕事を続けるためには、より働きやすい環境が必要不可欠です。業界全体で長時間勤務の常習化を改善するため、ノー残業デーの実施や残業の削減等さまざまな取り組みが行われています。しかし、業務の工期がひっ迫する場面では作業量が変わらないまま短時間で的確な成果を提出しなければならない場合もあり、問題解決に至るには、まだまだ過渡期と言えます。一方で、建設コンサルタント業界は他の業界と比べ、物価の高騰など経済状況に比較的影響されず仕事ができる利点があります。性別や年齢に関わらず個人の生活に合った柔軟な働き方ができる業界になるよう、また次世代の多くの若い技術者が建設コンサルタント業界に集えるよう、私自身も尽力していきたいと考えております。

5. おわりに

社会人として数年が経ち、仕事や新しい土地での生活にも慣れてきました。後輩もでき、新人とは呼ばれなくなったこの時期こそ、大きなミスなどが発生しやすくなると思います。1、2年目の失敗から学んだ経験を活かし、慢心せず、周囲の方への感謝の気持ちを忘れずに日々精進していきたいです。



【作業風景】

入社から2年間を振り返って

株式会社建設技術研究所 村田 悠仁

1. はじめに

私は2021年4月に建設技術研究所に入社し、今年で入社3年目となりました。道路・交通部に配属され、道路や関連する施設の設計業務に携わっています。この度は、若手技術者の声ということで、これまでの自分を振り返る貴重な機会を頂きましたので、入社してからの自分自身について書きたいと思います。

2. 社会人として

社会人になり初めに感じたのは、時間に追われるということです。私は大学では道路設計とは別の分野の研究をしており、大学院へ進学後も同様の研究を引続き行ったため、入社当時は道路設計に関してあまり知識がありませんでした。そのため入社してからは、聞き慣れない用語について調べたり、図面の見方を一から教わったりしつつ、毎日たくさんのメモを取りながら業務を行っていたのですが、馴染みのあまりない分野の説明になかなか理解が追いつかず、打合せの記録をうまく取ることができずに焦りを感じました。3年目となった現在も、日々勉強しながら業務を進めるということは変わりませんが、基本的な部分や用語が徐々にわかるようになってきたことで、自分が業務の中にいることをより実感できるようになり、よりやりがいを感じるようになりました。また、学生時代との違いとして、複数の業務を同時に進めることの難しさを感じました。社会に出る前は、自分の研究だけで良かったのですが、社会に出ると外部とのやり取りをしながら自分の作業を行い、それが自分の手を離れたら別の業務の作業、というように、複数の作業を効率よく進めなければならない、どれも中途半端な状態になったり、優先度の低いものが期限直前まで残ってしまったりということがあり、今後改善していきたいと感じているところです。

3. 働き方について

建設コンサルタントという業界に対し、私は残業が多いイメージを持っておりましたが、近年の働き方改革により、想像していたよりも自分の趣味などの時間が十分に取れていると感じています。また、私が入社した時には、すでに社内ではリモートワークが珍しくない状態だったため、新型コロナウイルスの感染者が増加した時期には積極的にリモートワークを行いました。現在は少しずつコロナ禍前の状況に戻りつつあり、出社することが多くなっていますが、自分の生活環境に合わせて、リモートワークも活用していきたいと思っています。

また、私は今年から技術士二次試験を受けられるようになり、業務と並行して試験対策をしていく必要があります。会社では勉強会や模擬試験など様々な支援を受けることができますが、私自身まだうまく活用できていないと感じています。今後、会社の支援をうまく活用して、早期に資格取得できるように努力したいと思っています。

4. おわりに

入社から2年間を振り返ると、学生の頃とのギャップに焦ったり、自分の至らなさにへこんだりすることが多かったように思います。自分の失敗は失敗として今後に生かせるように、適度に息抜きをしながら少しずつ経験を積んでいきたいと思っています。

また、3年目になり後輩ができたことで、自分の仕事に対する姿勢も見直していかなければならないと感じています。まだまだ周りの先輩に比べてできることは限られていますが、後輩に頼られるような先輩を目指して努力していきたいと思っています。

技術士合格体験記

三井共同建設コンサルタント株式会社 齋藤 勇 貴

1. はじめに

私は、建設部門の選択科目「河川、砂防及び海岸・海洋」を受験し、3回目にあたる令和4年度に合格しました。ここでは、合格に至るまでの体験や試験対策についてご紹介します。

2. 筆記試験

自身の受験期間を振り返り、筆記試験の合格に繋がったと考える勉強の取り組みについて、3つの観点でお伝えします。

1つ目は「適切な課題設定の工夫」です。筆記試験では得点全体の7割を占める必須Ⅰと選択Ⅲの回答精度を上げることが重要と考えます。必須Ⅰと選択Ⅲでは、必ず問題の初めに「課題設定」があり、課題を中心に論述を展開します。しかし、当初の私は課題を問われたのに対して、解決策や問題そのものを回答するなど、課題設定が上手くできず、論述全体の得点も低い状態でした。そこで私は、次のように思考することで課題を把握するよう工夫しました。【課題設定の考え方】①問題文＝現状未達成の事柄（例：DXの推進）→②未達成の原因を考察（例：IT技術者が不足）→③原因の逆を課題として設定（例：IT技術者の確保が課題）→④③の解決が①の達成に寄与するならば課題として妥当とする。

2つ目は「加点要素になるキーワードの整理」です。私は筆記試験に向けて、複数回の社内模擬試験を受けました。その際に幸いだったのが、高得点回答者の論文と加点キーワードを公開して頂いた事です。そのキーワードと、国土交通白書などを基に骨子法で整理したメモとを突き合わせることで、得点になる骨子の作成に努めました。試験本番では整理したキーワードを極力論文の中に盛り込むようにしたことが得点に繋がったと思います。

3つ目は「勉強時間の確保」です。私の場合は、試験勉強のために「まず勉強する環境に身を置く」とい

う事を大切にしました。勉強する際は、会社のラウンジや喫茶店等を利用して、「閉館・閉店よりも早い時間に業務を終えたら機械的にその場所に行く」とマイルールを設けました。その代わりに、席に着いたら珈琲で一息つくことを許して、自分なりのアメとムチを使い分けることで勉強の集中力とモチベーションを維持しました。

3. 口頭試験

口頭試験は、筆記試験の合格発表から約1か月後に実施されました。試験に向けては、想定される質問に対してコンピテンシーに沿った回答ができるように答案を準備しました。その上で、社内外の模擬面接を13回ほど受講して、その都度、答案を推敲しました。

また、模擬面接を通じて、私には回答が長くなる弱点があることが分かりました。そこで、①答案を端的に短くすること、②面接中の対話を想定した答案を作成すること、の2点を心掛けて答案を作成しました。②について具体的には、面接官に対し「質問は〇〇という認識で良いですか？ 〇〇について詳細に話しても良いですか？」などの対話をすることで、質問者の意図に沿わない回答や、長い回答を防ぐように工夫しました。

4. おわりに

技術士資格を取得したことで、管理技術者として業務に携わる機会にも恵まれ、喜びとやりがいを感じております。一方で、改めて日常業務や自己研鑽を通じた資質の向上が必要だと感じており、資格試験もその一歩だと思っております。今後は社会資本整備を通じて多くの方の役に立てるよう、より一層の努力をして参ります。

また、この場をお借りして、お忙しい中にも関わらずご指導いただきました皆様に厚く御礼申し上げます。

技術士合格体験記

株式会社復建技術コンサルタント 佐藤 大樹

1. はじめに

この度、数年間の受験を経て、技術士第二次試験「建設部門 都市及び地方計画」に合格いたしました。

技術士取得に向けた勉強方法は様々だと思いますが、一個人の体験談として合格に向けて準備、対策した内容をご紹介します。

2. 選択科目

私は当初より本選択科目での技術士取得を目指していましたが、先輩技術士からは、担当する業務が道路計画に関することが多いこと、何度も不合格となっていたことから、「道路」での受験を勧められていました。そのため、これ以上迷惑はかけられないと思い、本選択科目での受験は最後と考え、今回の試験に臨みました。

3. 受験申込書作成

願書作成にあたり、3回目の受験以降、同じ内容としていた「業務内容の詳細」を大きく見直しました。特に、技術士として相応しい内容であるか、口頭試験を意識した内容となっているかを踏まえ、問題点をどのように考え、その解決策の実施にあたり誰と協議し、どんなマネジメントを図ったかを端的に記載しました。

4. 筆記試験

今回の受験では、社内の特別対策講義を受講し、試験対策を集中的に実施しました。講義では、問題文に対して複数のキーワードを抽出し、それに関連する課題や解決策を書き出す訓練を反復して実施しました。

試験対策として論文を書くことは殆どしませんが、模範解答の論文を良く読むように心がけました。特に、過去問に対して自身で抽出したキーワードと、模範解答を照合し、抽出できなかったものや模範解答のつながりを中心に、効率的に学習しました。

選択科目の問題Ⅲでは、これまでの惰性での学習方法を見直しました。普段の業務遂行時と同様に、計画や施策の検討手順を意識するとともに、論文構成の検討に時間をかけることとしました。

その対策の繰り返しにより、どの設問にも現状や課題の整理、合意形成、運用時の注意点等の共通するルールがあることを理解し、さらに施策別の検討項目を関連付けて組み立てることで、どんな問題が出題されても、ある程度解答できるように対策しました。

5. 口頭試験

口頭試験では、ここまでの努力を無駄にできない、ここまで指導していただいた方に申し訳ないという気持ちと本選択科目での最後のチャンスというプレッシャーから、筆記試験よりも辛く厳しいと感じました。

学習方法としては、暗記が必要な部分は繰り返し声に出して覚え、願書に記載した業務を評価のポイントに合わせて徹底的に掘り下げ整理しました。また、社内外で可能な限り面接対策を実施し、落ち着いて受け答えができるまで訓練しました。

試験当日は奇しくも結婚記念日でしたが、食事は喉を通らず、試験会場に4時間前に到着するほど緊張していました。しかし、試験室への入室後は不思議と緊張もなく、準備してきた通りに回答することができました。

6. おわりに

技術士第二次試験は、これまでの自分自身を見直し、今後どのような技術者を目指すかを考える良い機会になりました。

無事合格を勝ち取ることができたのは、多くの方のご指導のおかげであると思います。ここまで支えていただいた皆様に対し、心より感謝申し上げます。

技術士合格体験記

株式会社建設技術研究所 齋藤涼太

1. はじめに

この度、「建設部門 河川、砂防及び海岸・海洋」に合格いたしました。

技術者としての日々を充実させるため、知見を深めるために技術士試験を受験しました。

資格取得のための準備は各々異なってくると思います。私一個人にとっての受験対策ですが、資格取得に向けて実行した準備、先輩技術士からの学びなど紹介いたします。

2. 筆記試験

過去問や模擬試験を作文し、添削を受ける対策は、自分の文章を客観的に見てもらうことで、技術に対する誤った認識、違和感のある論理構成、稚拙な言い回し等を発見できて王道であり必須な勉強方法です。

しかし、1年分=4つの論文を書き、添削結果を推敲して、自身のものにするには想定以上に時間を要すると思えました。したがって、模擬作文は厳選した問題を解き、そこで使った課題⇒解決策⇒波及効果と懸念事項、新たなリスクと対策の言い回しやキーワードは本番でも使えるよう努めました。

技術知識の不足を補うため、そのほかの時間はインプットとキーワードに対する骨子作成に当てました。

回答に必要なキーワードは、国土交通白書、社会資本整備重点計画、河川砂防技術基準、自分で1冊選んだ参考書のほか、国土交通省の水管理・国土保全HPなどを元に勉強しました。こちらも膨大な量なので、近年の重点テーマなどを中心に頭に刷り込んでいきました。私は、いくつかの資料を読み、同じ話題が登場した際に、特に記憶に定着したと感じました。

とにかく多くのお手本に触れたかったため、一番多くの合格解答例が載っている参考書を選び、1冊読みました。はじめは、「こんな論文が自分に書けるかな」と考えていましたが、勉強を進めていくにしたがって、「この水準で本番書ければよいのか」と意識しな

がら読むようになっていました。

勉強したキーワードを小問に対する解答に落とし込むために骨子を作成する訓練をしました。課題を列挙する際は、人・モノ・カネ・情報の観点+技術的、制度的な観点を意識しました。また、覚えた技術、施策等を解決策として当て込んで整理しました。

余談ですが、試験当日は相当長い時間机に向かうことになるので、調整しやすい服装や使い易い筆記用具など備えて臨んだことは良かったと思います。

3. 口頭試験

私の試験日は試験日程の最終日の1日前であったため時間は十分にありました。準備期間を確保できましたが、年末年始を挟んだので少々中弛みしたところもありました。

口頭試験の対策として実行してきたのは、コミュニケーション、リーダーシップ、評価、マネジメント、技術者倫理、継続研さんというコンピテンシーの定義を理解し、それらを実務経験の中でいかに発揮してきたかを明確に述べられるようQ&Aを作ることです。

過去の例を見ると「あなたはどのようにリーダーシップを発揮しましたか、コミュニケーションを図りましたか」というシンプルな質問が多いですが、私は試験本番で実務経験についてかなり掘り下げられました。

社内と建設コンサルタンツ協会の模擬面接で、厳しく、丁寧にご指導頂いたおかげで戸惑うことなく対応することができました。

4. おわりに

技術士試験を受けるにあたって、常にアドバイスをくれた某上司、サポートしてくれた同じグループの方々、社内の上司、先輩方、建設コンサルタンツ協会の方々には感謝申し上げます。今後は一層、資質向上に努めてまいります。

大人のスポーツ ゴルフ

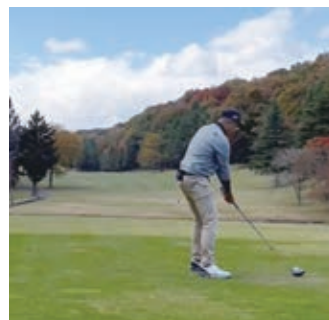
株式会社オリエンタルコンサルタンツ 高橋 慶伍

1. はじめに

社会人になり2年目となった私の趣味、ゴルフについて紹介します。

私の中でゴルフは、セレブのスポーツであるというイメージが強く、学生の頃には、まさか自分がゴルフを始めるとは思ってもいませんでした。

そんな私の社会人1年目のゴルフ生活について、以下にて紹介致します。



素晴らしいショットを打つ私

2. ブーメラン

私は、大変ありがたいことに入社して2ヶ月で上司におさがりのゴルフクラブのセットを頂きました。両親もゴルフをしないことから、初めてクラブ一式を見たときには、こんなにも種類があるのかと思ったことを覚えています。

クラブを頂いた日にその上司に練習場に連れて行って頂きました。ゴルフの基礎も何も知らない私は、クラブの握り方にすごく違和感を覚えました。何故、わざわざ人差し指と小指を絡め握りづらくするのかと強く思いました。小学生から高校生まで野球部であった私は、ゴルフの最初の壁にぶつかったと感じました。そして、いざ、球を打つと右へ飛び出し、さらに右へグイッと曲がります。まるでブーメランのような軌道で球が飛び出していきました。ちなみに、スライスと呼ばれています。野球では、流し打ちとして評価されていたものが、ゴルフになると全く評価されないものになりました。これは、何万回と振ってきたバットのスイングを身体が覚えており、どうしても球を切るように打ってしまう為でした。しかし、時々起こるナイスショットには、野球とは違う爽快感があります。

3. グリーン

ゴルフコースにデビューし感じたことは、緑の気持ち良さです。ゴルフのベテランの方々は、見出しを見て、パッティンググリーンを想像したことでしょうか。しかし、今回は、緑あふれるコース全体の景色を表現しています。北海道出身の私にとって大自然の中で体を動かすということは、とても心身のリフレッシュになります。また、一向にゴルフの腕が、上達しないことも趣味に励める理由の一つです。午前中は、上手くいていたのにお昼を挟むと出来なくなってしまっていることが多々あります。ゴルフには、上達したと感じた後にどん底へ落とされます。しかし、その分、次こそはできるかもしれないと気力も湧いてきます。ゴルフの技術は、すぐどこかに行ってしまうますが、たまに顔を見せてくれる所がゴルフのいいところですよ。



ティーグラウンドからの風景

4. ラウンド

昨年度は、多くの方々とコースを回らせていただきました。特に1年目の時は、ほぼ毎週、練習場も含め、ゴルフをしていました。そのため、収入のうち最低限の生活費以外は、ゴルフに費やしていました。そのため、社内制度の一つである資格取得による社内報奨金で、生活をしておりました。

弊社の東北支社におけるゴルフ人口は30名ほどです。そのため、偶数月の第一土曜日に行われる社内コンペでは、毎回20名程が参加します。参加者は、1年目をはじめとする若手から60歳を越えるベテランと幅広い年齢層で構成されています。弊社のコンペは、若手の私にとって、ベテランの方々など幅広い年齢層の方とコミュニケーションをとる大変貴重な機会でした。また、コンペには、すべての部署の方が参加しているので部署をまたいだ支社全ての方々とコミュニケーションを取れる機会でもありました。



社内コンペ開会式の様子

ゴルフコンペを通じて、1年目の私は部署をまたいだ幅広い年齢層の方々とコミュニケーションを取ることができ、ゴルフ以外の業務、支社のイベントなどでも気軽に相談、コミュニケーションを継続して取ることが出来るようになりました。

また、コンペ以外でも練習場や真冬の過酷なラウンドなど非常に充実したゴルフ生活を送ることができました。



社内コンペの集合写真

5. おわりに

本稿では、僭越ながら私の趣味について、語らせていただきました。

私は、ゴルフを通じて様々な人と関わりながらリフレッシュをすることができています。今後も健康を保ちながらゴルフの技術向上に取り組んでいこうと思います。

国指定史跡名勝「南湖公園」の紹介

株式会社長大 遠藤 敦

1. はじめに

今回は、みちのくの玄関口福島県白河市にある国指定史跡にもなっている「南湖公園」をご紹介します。



白河市は福島県中通り南部に位置し、古代に白河の関が置かれて以来、みちのくの玄関口として知られています。南湖公園は、JR東北本線白川駅より南へ約3kmに位置し、東西幅で約850m、南北約800mで面積は約400,000平方メートルあり、この中に湖面面積約177,000平方メートル、周囲約2kmの南湖があります。この地はもともと葦や茅あしがかや生い茂り、大沼と呼ばれていた低湿地帯だったそうです。南湖は享和元年（1801年）に白河藩主だった松平定信が幕府の老中職を退いた後、身分の差に関係なく誰もが楽しめる「士民共楽」という考えのもと築造され、庶民に開放されました。当時の庭園は城内や大名屋敷内などに造られ、庶民は立ち入ることができなかったようですが、南湖には垣根がなく、いつでもだれでも訪れることができる画期的なものだったようです。遠くは西方の那須連峰、近くは東南方の関山を眺望とし、鏡の山・月待山・小鹿山の丘陵に囲まれている借景に、定信は湖畔に松、奈良・吉野の桜、京都・嵐山の楓などを植え、松虫・鈴虫を放し、湖に魚を放流したようです。当時の方々もこれらの四季折々の美しさ、景色を楽しんだことでしょう。私が訪れたのは7月中旬の梅雨時で蒸し暑い曇天の日でした。この時期は木々の緑が大変鮮やかで、特に大小の楓の葉がきれいで何か立体的に浮かび上がっているようにも見えました。そして秋

には鮮やかな紅葉が見られることが容易に想像できました。また湖のほとりに咲いていた旬の紫陽花や湖面に浮かんでいる蓮の花もきれいでした。



「南湖」という名称ですが、唐の詩人・李白の詩「南湖秋水夜無煙」という「李太白文集」巻20の一節からと、定信の居城でありました小峰城の南方にあることから名付けられたと言われています。当時、行楽だけではなく、湖水は灌漑用水、水練・操船訓練としても利用され、造成工事は領民の救済事業としての性格も持っていたようです。

2. 公園内の施設について

公園内には様々な施設もありますのでそちらをご紹介します。まずは、やはりグルメからですが敷地に入るとすぐに「湖畔亭」という手打ちそばやラーメンが味わえる店があります（スープのいい香りが漂っていました）。その隣にわらび餅の専門店「甘味処鎌倉」があります。わらび餅ドリンクというわらび餅とヨーグルトや抹茶が入ったドリンクに、バニラアイスをつッピングした魅惑の一品に大変食欲がそそられました。そちらを過ぎると歴史を感じさせる旅館「借楽園」があります。この日は県内の高校の名前が玄関先に掲げられていました。その先からは名物の「南湖だんご」の店「花月」、カフェ好きなら一度は訪れたい大変おしゃれな雰囲気、コーヒーやスイーツが楽しめるカフェ「SHOZO SHIRAKAWA」。うどんやそばがメインの「萩原屋」。明治時代に西白河郡役場と

して使っていた建物を移築・復元した明治記念館の1階にあるLamp Café（ランプカフェ）と、その隣にあるこちらも洋風でいて少し不思議な雰囲気を出しているカフェ「魔法のランプ」と興味がそそられるお店が続いています。湖のほとりでゆっくりと静かな時間を過ごしてみたいと思う方には是非お勧めです。



そしてその奥には、厳かな雰囲気「南湖神社」があります。入口正面には松平定信公の石像と南湖神社と書かれた石柱があり、その奥に鳥居が建っています。南湖神社は日本主義の父と讃えられた渋沢栄一の多大なる支援によって大正11年（1922年）に創建されました。渋沢栄一は、生涯にわたり定信公を敬愛したようで神社創建にもその思いが込められていたと思われます。境内には昨年5月に鎮座百年を迎えたことを記念した幕が飾ってあり、より一層歴史の重さを感じました。またその隣は杉林になっているのですが、その中に大きな銀杏の木が2本あり、まさに御神木といった雰囲気を出していて、空気がそこだけひんやりしているように感じられました。神社を降りると道路を挟んで日本庭園の「翠楽苑」があります。入園は有料（大人350円、中・高校生170円、小学生以下無料、呈茶とのセット料金もあります）で、この日は休園日（12月から2月は第2水曜日、3月と7月は第2水曜日と第2木曜日、年末年始）で中に入ることはできませんでしたが、歴史を感じさせる門構えが印象的でした。その他、神社と、この庭園の間の道路を登ると、市民が中心となって作った南湖森林公園があります。芝生広場や整備された遊歩道で自然を楽しむことができますので、小さいお子さんも思いっきり駆け回って楽しめると思います。



3. 公園近隣について

南湖公園の近隣には、またグルメになりますが、忘れてはならない白河ラーメンのお店が多くあり通称「ラーメン街道」があります。湖の横を通る国道289号沿いには「秀佳亭」、「かこい食堂」、「火風鼎」などの人気店が軒を揃えています。好みはそれぞれあると思いますし、お店によっても特徴がありますので、意（胃）を決してラーメン屋のはしごはいかがでしょうか。その他「パンとケーキの店 ichikawa」や「キッチンダイニング iitte-micca」（行ってみっか＝行ってみようか）、ちょっと高級でいつかは訪れてみたいと思わせる「白河料亭 花文」といったバラエティーに富んだお店が並んでいますので、こちらも楽しんでみてはいかがでしょうか。また、小峰城や最近様々なアート要素を取り入れた白河だるまのお店もありますので、併せて楽しむのもお勧めです。

4. おわりに

途中からはグルメが中心になってしまいましたが、南湖公園は日本最古の公園といわれています。1924年12月9日には国の史跡及び名勝に指定されました。周囲は南湖県立自然公園に指定され、2010年3月25日には南湖として農林水産省のため池百選にも選定されています。このような定信公の「士民共楽」の思いが詰まった歴史のある部分と、現代風にくつろぐことができ食欲も大いに満足できる南湖公園に一度足を運んでみてはいかがでしょうか。

AI 技術を活用した交通事故分析手法 「インフラ DX」優秀賞（国土交通省）

株式会社オリエンタルコンサルタンツ 林 祐 志

1. AI 技術を活用した交通事故分析手法

一般的な交通事故分析は、事故データだけでは実際の事故発生の様子がわからないため、現地で交通状況等を目視観測し、観測者が事故発生要因を推測して対策を立案している。

AI 技術を活用した交通事故分析手法は、自動車、自転車および歩行者の交通挙動をビデオ観測し、AI 技術により危険事象を客観的に分析するとともに、ドライブレコーダーの映像を用いてドライバーの視認性や運転状況を分析することで外在的、内在的な事故要因を特定し、実効性の高い対策を立案する手法である。

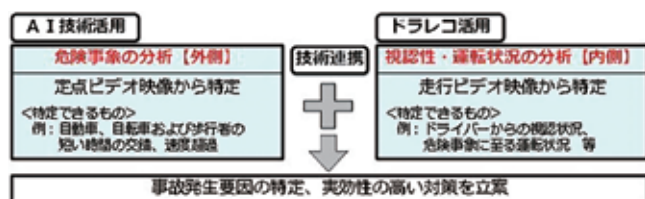


図1 事故発生要因の分析手法

2. 分析手法の特徴

本手法には2つの特徴がある。

(1) 特徴1 危険事象抽出の効率化及び精度向上

従来の目視観測による危険事象の抽出方法は、人為的な作業であることから相当な時間を要するとともに、観測者の主観的な判断が入ることからその精度に課題があった。AI 技術を活用した分析手法は、交通工学の知見に基づいた「事故リスク指標」を用いることで、膨大なビデオ映像からスピーディー（作業時間が目視観測の5分の1程度に短縮）に、客観的かつ正確な危険事象の抽出が可能である。

(2) 特徴2 事故要因の解明による実効性の高い対策の立案

AI 技術による危険事象分析と、ドライブレコーダーで捉えたドライバーの視認性や運転状況の分析を組み合わせることにより、事故要因の解明に有用となる危険事象を網羅的に特定することで、これまで把握できなかった交通事故の発生メカニズムの全容を解明でき、より実効性の高い対策立案が可能である。

図2下の例では、本手法で危険事象の発生の様子を

確認した結果、自転車の走行位置によってはドライバーから自転車が見えにくく、発見が遅れることが要因と特定できた。これにより、自転車の走行位置に着目した実効性の高い対策が立案できた。

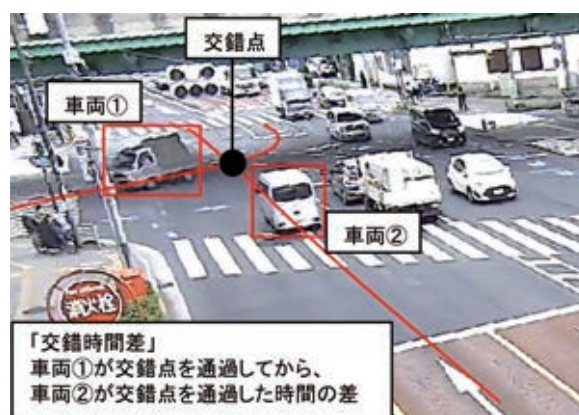


図2 AI 技術を活用した危険事象の抽出例

3. インフラDX大賞を受賞

本分析手法は、国土交通省が主催する「令和4年度インフラDX大賞（工事・業務部門）優秀賞」を受賞した。

4. 今後の展開

AI 技術を活用した交通事故分析手法の活用により、特に交通事故件数の減少しない交差点等にも実効性の高い事故対策・活用が期待できる。今後も、この技術を活用するとともに、さらなる技術開発に取り組み、安全・安心な交通社会の実現に貢献していく。

みちのく i-Construction 奨励賞 河川改修工事に伴う 3 橋架替え事業における 3 次元VR空間技術の活用

八千代エンジニアリング株式会社 阿 部 雅 史

1. はじめに

東北復興DX・i-Construction連絡調整会議にて革新的技術の活用等により建設現場の生産性向上を図る「i-Construction」の特筆すべき点を有する取り組みを表彰する「みちのく i-Construction」において、「貴船川河川維持橋梁施工計画検討業務委託（発注者：青森県東青地域県民局地域整備部）」が、工事・業務部門で奨励賞をいただくことができましたので報告させていただきます。

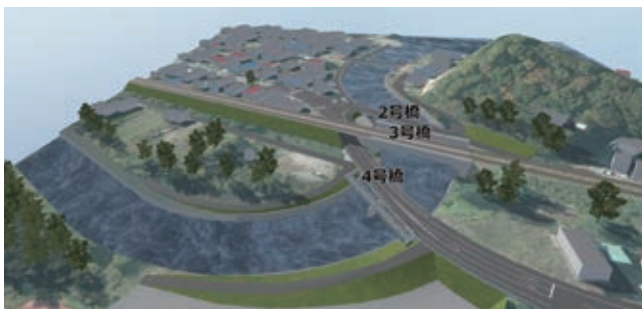


図1 貴船川改修事業後の3橋梁完成予想図

2. 業務目的

本業務は、都市基盤河川貴船川にかかる2・3・4号橋について、近接する3橋の架け替え工事を計画し、詳細設計が完了しているところですが、相互に関連して効率的かつ安全な施工を行うための施工計画の立案を実施した業務となります。

3. 「3次元VRモデル」の活用方法

県道と市道の道路橋2橋と青い森鉄道の鉄道橋1橋の3橋の施工計画を行う上で、3次元VRモデルを「現況・施工段階・完成」の各段階で作成することで、施工時の問題点の抽出および施工計画の改善を行い、関係機関協議の合意形成促進ツールとしました。

①施工計画策定における活用

主桁のPCR函体推進工事では、鉄軌道の直下に函体推進する工事であるため、河川の上下流側に広い施工ヤードを設ける必要があります。列車走行の安全面を第一に考えて、3次元VRモデルを活用し、鉄軌道

に影響を与えない施工手順を立案し、そして仮設工の変更（仮土留工および仮護岸工等）を検討しました。

②鉄道の近接工事対策の可視化

施工中のモデルは、現場全体（構造物・地形・足場・重機等）を作成し、施工時における鉄道近接対策を事前に3次的に可視化することにより、あらゆる視点場から施工計画を把握できるようにしました。このVRモデルにより、施工段階の問題点の早期発見や工事中の安全対策を検討することができ、より安全性の高い施工計画とより正確な工事費算定を行うことができました。

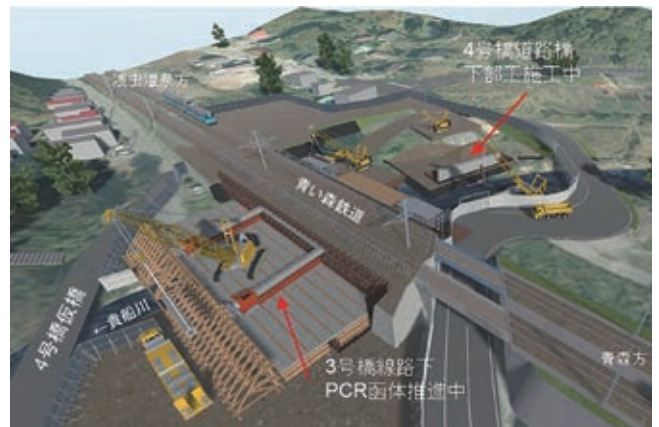


図2 3号橋のPCR函体推進時の施工中モデル

4. まとめ

令和5年度の小規模を除く全ての公共工事におけるBIM/CIM原則適応に向けて取り組みが加速している中で、狭隘な空間における多工種の工事については、VRモデルを今後も適用するのがよいと考えています。

建設技術公開 EE 東北 '23 について

株式会社ダイエツ 樋口章大

今年で32回目となる『建設技術公開EE東北'23』が夢メッセみやぎで開催されました。EE東北のEEとはEngineering Exhibition（エンジニアリング・エキシビジョン）の略で、新技術を広く公開するという意味が込められており、建設事業に関わる新技術、新工法、新材料、その他時代のニーズに対応して開発された技術が毎年公開されてきました。

主催はEE東北実行委員会（委員長：東北地方整備局 企画部長）で19の建設関連団体等から構成され、建設コンサルタンツ協会東北支部もその1員となっております。

■開催概要

期 間：2023年6月7日（水）～6月8日（木）

場 所：夢メッセみやぎ

（宮城県仙台市宮城野区港3丁目1-7）

来場者数：13,900人（主催者発表値）

（内訳：6/7 6,900人、6/8 7,000人）

出 展 者：385（過去最多）

出展技術：1,035（過去最多）

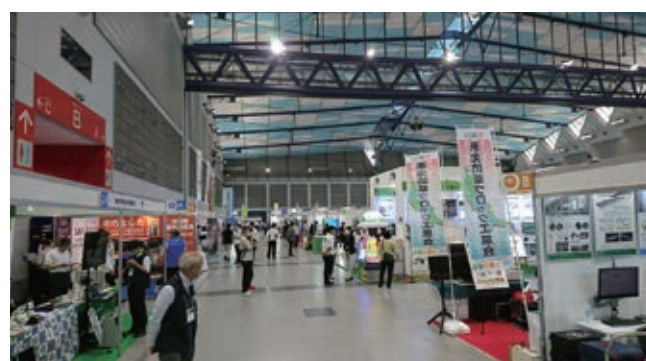
今年のテーマ：『広げよう新技術 つなげよう未来へ』

また、新技術の展示以外にも基調講演、インフラDX（ICT）体験、新技術プレゼンテーション、学生向けに出展企業とマッチングができる広場や会場に来られない方に向けたライブ配信など、様々なプログラムが各会場で行われました。

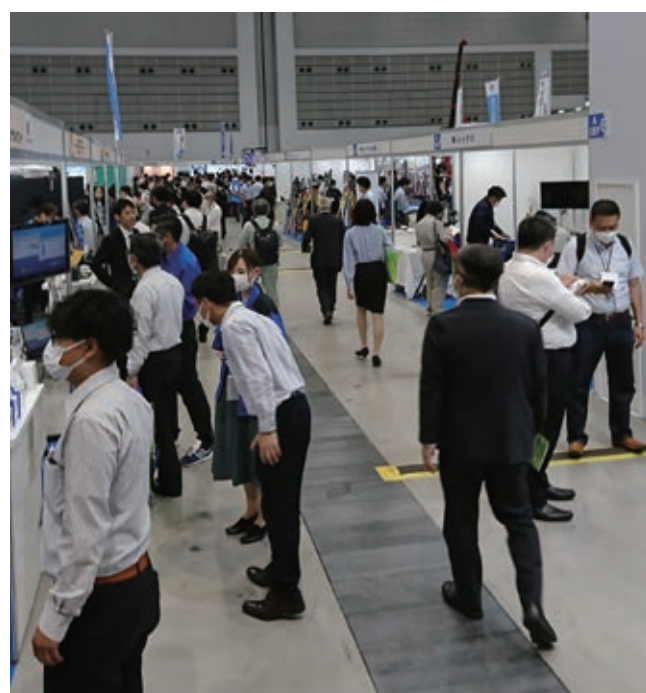
建設コンサルタンツ協会東北支部からは以下のとおり35社（グループ出展含む）が参加し、新技術の紹介や展示を行いました。



会場入り口の様子



屋内会場①



屋内会場②

■EE東北'23 出展社・技術一覧（建設コンサルタンツ協会 東北支部）

	会員企業名	出展技術名	概 要
1	朝日航洋(株)	防災・安全対策に資する高標高域3次元点群データ取得	計測からデータ閲覧サイトの構築まで ～富士山計測プロジェクト～
		8Kカメラ搭載計測車両「GT-8K」	国土交通省「点検支援技術性能カタログ」（トンネル）掲載技術
		トンネルの「うき・剥離」の高精度・高速検出技術	令和4年度 国土交通省 新道路技術会議 優秀技術研究開発賞
2	アジア航測(株)	3D都市モデルの構築【PLATEAU】	3次元建物モデルを活用した浸水想定予想図作成
		航空レーザー計測による森林資源解析	レーザー林相図による森林管理の高度化
		CIMモデルを活用した砂防堰堤設計の効率化	CIMモデルと赤色立体地図を活用した堰堤計画の可視化
3	(株)ウスマ地域総研	調査・設計・維持管理におけるデジタル技術活用	3次元計測によるシームレス（地上～水中）なデータを提供し、調査・設計・維持管理までをマルチに対応
4	(株)エイト日本技術開発	AUVを用いた水ソリューションサービスの提供	水中の広範・多様な3次元データの同時取得、環境改善・構造物維持管理などに寄与
		災害対応工程管理システムBOSS	地域防災計画・BCPの電子化・フロー化で災害対応の「見える化」を実現し、自治体の【防災DX】に貢献
		全方向水面移動式ボート型ドローン	点検支援技術【溝橋点検ロボット】狭隘な水路や溝橋などにおける安全かつ効率的な点検技術
		ぶつからないドローンを用いた点検技術	ぶつからないドローン（J2ドローン）による橋梁点検とスマートグラスへのLIVE画像転送技術
		保全対策検討に資する猛禽類の挙動検知システム	AI・IoTカメラおよびRPAを活用した猛禽類の繁殖状況自動判定システム
		進化するBIM/CIM、AR、VR	建設前に目でわかる完成イメージ、住民目線の検討、工事の品質確保にも効果を発揮
5	応用地質グループ／ 応用地質(株)・ (株)ケー・シー・エス・ 東北ボーリング(株)	3次元地盤モデルを活用した河川堤防の健全度評価	洪水リスクの低減へ
		OYO GeoTools	BIM/CIM関連ソフトウェア「OYO GeoTools」
		3次元常時微動トモグラフィ	振動計を地表に置くだけで地盤を3次元で可視化
		ハザードマッピングセンサ	多点モニタリングによる広域な災害箇所の把握を可能とした防災システムを構築します
		人とモノの運行効率と利便性を高める運行管理システム	乗降客数計測システム「PPomsys（ポムシス）」&輸送管理システム「T-MAS（ティーマス）」
		2つの宮城県初を達成した新社屋建築のテクノロジー	CLT材を用いた木造建築での「ZEB」認定オープンループ方式での地中熱ヒートポンプシステム導入
6	オリエンタルコンサルタンツ ホールディングス／ (株)オリエンタルコンサルタンツ・ (株)アサノ大成基礎エンジニアリング・ (株)エイテック	最新技術を使った点検技術の高度化	技術の高度化を念頭に置き、3Dスキャンの活用・MR技術を応用した点検アプリの開発を行っています
		傾斜センサーと土壌水分計を用いた斜面管理システム	土壌水分の変化と土塊の立体的な変動を同時に観測し、斜面の安定を常時監視します
		ドローンによる構造物の点検支援技術	シーンに適したドローン点検支援技術（国土交通省新技術性能カタログ掲載技術）をご提案します
		橋梁保全におけるECI方式の導入及び橋梁包括的発注	ECI方式（自治体仕様）の導入及び橋梁包括的発注による橋梁の予防保全型維持管理への移行
		砂防領域における3D管内図	多時期の3D画像により、地形の変化を「見える化」します
		3次元点群データを活用した交通事故可視化システム	仮想空間上で交通事故に繋がる複合的な要因を可視化します
7	川崎地質(株)	異常判定AIを搭載した地中レーダ探査装置	異常判定AIと多様なレーダ機器を用いた空洞探査を提供
		SAAMシステム（アンカー法面の面的調査）	維持管理段階のアンカー調査に！ 小型軽量リフトオフ試験専用ジャッキ
8	(株)建設環境研究所	電子野帳による野外調査のDX化	ミスを減らし装備を減らし入力負荷を減らす！ 清書や転記の工数ゼロ！
		ゲームエンジンによる将来景観の可視化	ゲームエンジンの強力な3D可視化機能を利用し、将来景観を驚異的な精度とパフォーマンスで現実のものに！
		ブラックライトを用いたひび割れ検知システム	樋門樋管等の微細なひび割れ（補修箇所の再劣化によるもの等）の発見を容易にします！
9	(株)建設技術研究所	さまざまな水災害リスク情報をリアルタイムに提供	降雨予測技術を活かして、より避難に役立つ情報を提供するサービス
		都市DXで進める新たな公共空間の計画設計支援	3D都市データの共創型コミュニケーションツールによるまちづくり
		VRを用いた維持管理点検の基礎技術習得研修ツール	橋梁定期点検の基礎技術の習得を目的としたVR（仮想現実）研修ツールの開発
		AIを用いた猛禽類営巣適地の判別	営巣適地を短時間で判別し、事業遅延・コスト増加のリスクを低減
10	(株)構研エンジニアリング	トンネル点検システム「ロードビューワ」	トンネル点検で覆工撮影～調書作成まで行えるシステム
		橋梁桁遊間異常のモニタリングシステム	目視点検では困難な温度による桁の動きを「見える化」
		附属物検知デバイス「フリークエンター」	附属物の取り付け状態等の健全性を触診によって把握する電源不要のデバイス

	会員企業名	出展技術名	概 要
11	国際航業(株)	インフラ施設管理のDXソリューション	道路施設に関する全ての情報を一元管理「Genavis Tao-Asset」
		道路巡視のDX化	道路パトロールシステムと現地調査システムによる道路巡回のDX化
		インフラ管理における3Dデータ活用	3Dデータの利活用を促進する3D解析ビューワ「FusionSpace」
12	国土防災技術(株)・ サンスイ・ナビコ(株)	蛍光X線分析装置によるコンクリートの塩分濃度測定	橋梁等のメンテナンスコスト削減にご活用ください！
		QS(キューエス)ボーリング工法	軽量ボーリングマシンを使用した高品質コア採取技術
		地すべり粘土の残留強度試験技術	すべり面のせん断強度を精度良く測定！
		Fixr(フィクサ)グラウンドアンカー工法	優れた維持管理性・長期定着性！
		仮設ECOバインド工法	斜面を短期的に保護！ 施工時の安全を確保する工法
		ロックボルトバックカー	鉄筋挿入工のグラウト充填不良対策に！
13	(株)昭和土木設計	最新ICTでの全体最適化設計技術と高度充実化の事例	道路詳細設計の過程における3次元検討事例
		測量調査設計業務における3次元技術の活用事例	調査設計段階での解析・検討事例を紹介します
14	新和設計(株)・ (株)新和調査設計	自然素材を活用した小型コンクリート構造物	自然素材である竹材の小型コンクリート構造物への実用化
		画像技術を活用したコンクリート表面成分の検出	機能改良カメラにより、撮影した画像から構造物表面付着塩分の分布を把握
		三次元計測における検証と効果	ハンディ計測、SLAM計測での精度検証と効果
15	ダイエツグループ/ (株)ダイエツ・ (株)センソクコンサルタント	高解像度カメラを活用したトンネルなどの構造物点検	走行型をはじめ高解像度カメラを活用した点検支援技術
		障害物を回避するUAVを活用した橋梁点検	橋梁の点検・診断をUAVで行う画像技術
		AI技術や3次元モデルを活用した画像解析	構造物の画像を活用したAIによるひび割れ自動検出とリアルを追及した3Dモデルの作成技術
		レーザ計測を活用した3次元計測技術	地上型やUAVレーザでスピーディーに高精度な3次元データを提供
16	大日本コンサルタント(株)	スマートインフラ維持管理	AI技術を搭載したタブレットシステムによる次世代型インフラ維持管理
17	(株)ダイヤコンサルタント	のり面点検装置	障害物を浮上回避する吊り下げ型のり面近接点検装置
		ダイヤ電子野帳DDY	アナログ調査である地形・地質踏査に電子野帳(タブレット)を導入しDX化！
		非破壊調査・診断技術【高周波衝撃弾性波法】	波形で状態を診る！～基礎杭の長さ把握、躯体・巨礫の形状把握、コンクリート構造物の健全性調査まで～
18	中央開発(株)	ダム貯水池3Dマッピング技術「Nソナー」	魚群探知機を用いたダム貯水池3Dマッピング技術「Nソナー」
		斜面崩壊検知センサー「感太郎」	設置の簡素化・多点化を可能にする軽量・省エネ・狭小・安価な斜面崩壊検知センサー
		微動・振動監視システム「震介」	常時微動・振動を計測して地盤の不安定化を監視
		地盤情報配信サービス「地盤情報ナビ」	全国のボーリングデータ35万本収録の地盤情報無料配信サービス
		懸濁気泡水ボーリング工法「IFCS工法」	緩い砂から破砕帯まで微細気泡水による高品質コア試料の採取
19	(株)東京建設コンサルタント・ (株)東建エンジニアリング	画像処理法による表面流速観測	画像解析による流量観測の自動化への取り組み
		水位観測カメラシステム	画像解析による河川水位観測に関する取り組み
		水位・水質・気象データ等クラウド監視システム「わかるくん」	水位・水質・気象データ等について、リアルタイムにクラウド監視する技術の開発
20	(株)ドーコン	高精度GPSを用いた自転車交通安全のミライ	高精度GPSによる新たな自転車利用実態把握技術
		野生生物の保全・共生技術	希少猛禽類と共存する技術
		寒冷地でのZEB建築設計	美幌町役場庁舎建設設計業務委託
21	日本工営グループ/ 日本工営(株)・ 日本工営都市空間(株)・ 日本シビックコンサルタント(株)	衛星情報サービス	衛星を活用したインフラ施設等管理の高度化・効率化
		点群データ、BIMデータ、3Dアセットの活用提案	裸眼で快適な立体視体験
		地すべり・斜面对策工自動設計システム	地すべり・斜面对策工自動設計システム
		防災プラットフォーム 防すけ	浸水情報をリアルタイム発信 クラウド連携可能な防災プラットフォーム
		多機能フィルターBSCマット	多機能フィルターBSCマットは土壌侵食を防止しながら緑化を実現する持続可能な新たな緑化資材です
		地域エネルギーマネジメントシステム(CEMS)	地域の再エネを最大限活用し、脱炭素とレジリエンスの向上を実現するエネルギーマネジメントシステム
		3Dモデルを活用した都市空間形成	3D計測・3Dデータの活用・都市空間形成・森林経営計画
		裏込め圧保持(Re Back)システム	裏込め圧保持により、シールド掘進停止時の応力開放ゼロを目指します
		多機能変換型TBM工法(MC-TBM)	TBMのカッターと隔壁に開口部を設けることでNATMへの変換を容易とし、破砕帯等への対応性を向上
		22	(株)ニュージェック
リアルタイム水圧データを活用した漏水検知システム	当社独自開発のアルゴリズムによる、漏水発生箇所の候補地を特定するシステム(特許取得)		

	会員企業名	出展技術名	概 要
23	パシフィックコンサルタンツ(株)	交通手段もわかる人流ビッグデータ「全国うごき統計」	ビッグデータを解析し全国を網羅的に捉えた人流統計データ 道路・公共交通・観光・防災など多分野に実績!
		工事車両運行マネジメントシステム	発生土トレーサビリティの効率的な管理と発生土・資機材等の運搬車両の運行管理
		固定翼UAVによるインフラ管理・災害対応の革新	固定翼UAVの高速・広域・無人飛行により、インフラ点検や災害時の情報取得・活用を効率化・高度化!
		河川流量リアルタイムモニタリングシステム	最新の流速計測システムと融合した本システムは、次世代の河川管理・危機管理の基礎データを提供します。
		防災業務支援システムの活用から始める河川防災DX	洪水監視、被害予測、行動指南、対応支援に特化し、防災業務の効率化・省力化を支援するWebシステム
		平時も防災時にも使える災害リスクマネジメントサービス	平時におけるリスクシミュレーションや訓練、発災前や初動対応に利用可能なデジタルサービス
24	(株)バスコ	三次元管内図によるDX推進と3D都市モデルの融合	河川維持管理の効率化と防災・減災対策の高度化 (Skyline社製システム)
		3D都市モデルを活用したまちづくりDXの支援	多様な視点からProjectPLATEAUが推進するまちづくりDXを支援
		BIM/CIM原則適用を支援するソリューション	高度な三次元計測技術とソフトウェアによるデータ活用で建設業界のDXを推進
		SmartSOKURYO POLE 利用サービス	高精度座標計測が簡易にできる機能や境界杭等探索ナビゲーション機能を搭載した機器の利用サービス
		IoTインフラ遠隔監視サービス: Infra Eye	人とセンサーが相互に補完し、インフラ維持管理業務の効率化・省人化をサポート
		衛星による地形地物のモニタリング技術	地球観測衛星で撮影された広域データから地形や地物の変位・変化を面的に把握し、業務効率化を支援
25	人・夢・技術グループ/ (株)長大・基礎地盤コンサルタンツ(株)・(株)エフェクト・順風路(株)・(株)長大テック・(株)ビーシーレールウェイクンサルタント	自律巡回型施設点検システム	農園や工場等の施設を自律巡回AIによる画像認識技術と連携して様々な施設の自動点検が可能
		画像分析AIを用いた簡易的な粒度分析(電脳粒度)	スマートフォンで写真を撮るだけで砂質土の粒度組成を見える化・現場作業の効率化!
		MRアプリ『CoreViewer』の紹介	Mixed Reality (MR) アプリ『CoreViewer』でボーリングコアのホログラム表示
		D・Box工法	「地盤補強+振動軽減+液状化抑制の効果を備えた工法」【D・Box工法】
		乗合オンデマンド交通システム「コンビニクル」	ITを使った乗合システムで地域の交通課題を解決します。防災情報サービスとの連携も展開中。
		用途広がるバイオ炭	バイオ炭の農地施用によるCO ₂ 削減事業で国内初のクレジット承認!
		自己完結・完全循環型水処理システム A.Q	生活排水等の汚泥を軽減・不発生・消失させ全ての処理水を100%水資源として循環利用出来ます
		BIM/CIM(3次元モデルデータソリューション) 斜張橋ケーブル点検ロボット「VESPINAE」	インフラ分野のDX時代に対応し、3次元データモデルの整備に注力 斜張橋ケーブルの近接点検を安全かつ迅速に実施できる点検ロボット
26	(株)福山コンサルタント	下部工基礎の洗掘モニタリングシステム	橋梁下部工の洗掘を遠隔モニタリング
		逃げ遅れゼロを目指す水防災システム	逃げ遅れゼロを目指す「高度広域防災情報サービス」
		人流ビッグデータ可視化ツール	行動データを中心としたデータの可視化、KPI設計、予測をサポート
27	(株)復建技術コンサルタント	e-シリーズによる施設管理の効率化・高度化	国土強靱化のための施設点検から設計・維持管理まで、技術力と総合力のワンストップサービスを提供
		橋梁点検・維持管理技術の高度化	床版の非破壊調査技術による維持管理作業の効率化と実寸大3次元モデルを活用した維持管理手法の効率化
		大地震に強い宅地地盤とまちづくり	大地震により被災した宅地地盤の災害復旧および防災・減災のための取り組み
28	東北大学未来科学技術共同研究センター 吉川研究室・日本大学工学部 岩城・前島研究室・(株)エビデント・(株)復建技術コンサルタント・(株)XMA T	蛍光X線分析によるコンクリート塩分濃度調査工法	非破壊検査と拡張現実技術の組み合わせによりコンクリート塩分濃度調査における大幅な省力化を実現
29	三井共同建設コンサルタント(株)	データ解析におけるスパコンの活用	スパコンを用いて複雑な解析処理を高速化
		消滅しつつある「海のゆりかご“藻場”」再生に着手	“磯焼け(藻場の喪失)”の原因である“アイゴ”を活用した地場産品開発を実施
30	八千代エンジニアリング(株)	ダム維持管理の合理化	非GPS下のドローン自律航行と深層学習を融合したダム堤体劣化調査 ドローン遠隔操作による監査廊内点検
		改良型弾性波探査	老朽化したコンクリート構造物の健全度評価を見える化第5回インフラメンテナンス大賞にて優秀賞を受賞!
31	(株)吉田測量設計	3次元モデルの活用・無人流量観測システム	デジタル技術を活用した河川管理への取り組み

令和5年度 東北支部会員 東北地方整備局 優良業務 局長表彰 一覧

企業等名	業務名	技術者氏名	企業所在地	所管事務所	業務区分
いであ(株) 東北支店	鳴瀬川水系水害対策検討業務	(管理技術者) 小澤 宏二	仙台市 青葉区	北上川下流 河川	土木 (河川)
(株)ウスマ地域総研	米代川洪水痕跡調査	(主任技術者) 石綿 智幸	秋田県 秋田市	能代 河川国道	測量
(株)エイト日本技術開発 福島営業所	国道399号 伊達橋災害復旧外調査 設計業務	(管理技術者) 鷲見 英信	福島県 福島市	福島 河川国道	土木 (橋梁)
(株)オリエンタルコンサルタンツ 青森事務所	青森管内道路整備計画検討業務	(管理技術者) 竹平 誠治	青森県 青森市	青森 河川国道	土木 (道路)
(株)オリエンタルコンサルタンツ 秋田事務所	能代管内事故対策検討業務	(管理技術者) 松戸 努	秋田県 秋田市	能代 河川国道	土木 (道路)
川崎地質(株) 北日本支社	鹿島台地区地盤対策検討業務	(管理技術者) 大坪 智博	仙台市 宮城野区	北上川下流 河川	地質調査
川崎地質(株) 北日本支社	四十四田ダム再生ダムサイト右岸部 地質調査	(管理技術者) 太田 史朗	仙台市 宮城野区	北上川ダム 統合管理	地質調査
(株)菊池技研コンサルタント	南三陸沿岸国道管内道路設計業務	(管理技術者) 鈴木 隆	岩手県 大船渡市	南三陸 沿岸国道	土木 (道路)
(株)協和コンサルタンツ 青森営業所	津軽道柏地区道路詳細設計業務	(管理技術者) 中村 勇二	青森県 青森市	青森 河川国道	土木 (道路)
(株)建設技術研究所 東北支社	阿武隈川水系洪水予測高度化 検討業務	(管理技術者) 矢神 卓也	仙台市 青葉区	河川部	土木 (河川)
(株)建設技術研究所 東北支社	阿武隈川上流河川整備計画等 検討業務	(管理技術者) 高見 隆三	仙台市 青葉区	福島 河川国道	土木 (河川)
(株)建設技術研究所 東北支社	内川等樋管詳細設計(その2)業務	(管理技術者) 巽 龍太郎	仙台市 青葉区	宮城 南部復興	土木 (河川)
国際航業(株) 秋田営業所	能代管内防災・土工構造物 点検業務	(管理技術者) 中村 芳貴	秋田県 秋田市	能代 河川国道	土木 (道路)
国際航業(株) 山形営業所	置賜地区災害対策復旧設計業務	(管理技術者) 大粒来茂樹	山形県 山形市	新庄河川	地質調査
国土防災技術(株) 山形支店	赤川流域地質調査業務	(管理技術者) 柴崎 達也	山形県 山形市	岩手 河川国道	土木 (砂防・地すべり)
(株)三和技術コンサルタント	高屋防災(古口中地区)用地調査等 業務	(主任担当者) 須藤 千春	山形県 村山市	山形 河川国道	補償
セントラルコンサルタント(株) 秋田営業所	仙北地区道路概略検討業務	(管理技術者) 菊池 皓次	秋田県 秋田市	秋田 河川国道	土木 (道路)
玉川ダム管理フォローアップ検討 業務 水源地環境センター・東京 建設コンサルタント設計共同体	玉川ダム管理フォローアップ 検討業務	(管理技術者) 瀧澤 靖明	東京都 千代田	玉川ダム	土木 (ダム)
中央コンサルタンツ(株) 山形事務所	大石田・横山地区橋梁予備設計業務	(管理技術者) 山本 武司	山形県 山形市	新庄河川	土木 (橋梁)
中央コンサルタンツ(株)	仙台塩釜港仙台港区分洋地区 岸壁(-14m) 取付部外細部設計	(管理技術者) 錦織 庄吾	仙台市 青葉区	塩釜港湾・ 空港整備	港湾 (設計)

話 題

企業等名	業務名	技術者氏名	企業所在地	所管事務所	業務区分
(株)東京建設コンサルタント 福島事務所	阿武隈川上流地内道路詳細設計業務	(管理技術者) 阿部 広昭	福島県 福島市	福島県 河川国道	土木 (道路)
日本工営(株) 秋田事務所	成瀬ダム地質検討業務	(管理技術者) 岸 司	秋田県 秋田市	鳴瀬ダム 工事	土木 (ダム)
日本工営(株) 福島事務所	福島管内構造物点検補修設計業務	(管理技術者) 尾崎 裕司	福島県 福島市	福島県 河川国道	土木 (道路)
日本工営(株) 山形事務所	月山地すべり志津地区対策予備設計 業務	(管理技術者) 工藤 唯志	山形県 山形市	新庄河川	土木 (砂防・地すべり)
日本工営(株) 山形事務所 + B36	長井ダム管内復旧対策検討業務	(管理技術者) 太田 佳秀	山形県 山形市	最上川ダム 統合管理	土木 (ダム)
パシフィックコンサルタンツ(株) 東北支社	仙台都市圏幹線道路整備計画検討 業務	(管理技術者) 畑中 克好	仙台市 青葉区	仙台市 河川国道	土木 (道路)
パシフィックコンサルタンツ(株) 盛岡事務所	三陸国道管内交通網調査業務	(管理技術者) 山崎 剛	岩手県 盛岡市	三陸国道	土木 (河川)
(株)福山コンサルタント 福島営業所	郡山国道管内整備効果検討業務	(管理技術者) 原田 慎也	福島県 福島市	郡山国道	土木 (道路)
(株)双葉建設コンサルタント	最上川上流村山右岸地区災害対応 業務	(管理技術者) 安食 信和	山形県 新庄市	山形県 河川国道	土木 (河川)
(株)復建技術コンサルタント 山形支店	高畠地区設計業務	(管理技術者) 江口健二郎	山形県 山形市	山形県 河川国道	土木 (道路)
三井共同建設コンサルタント(株) 青森営業所	岩木川災害調査等業務	(管理技術者) 横川 勝美	青森県 青森市	青森県 河川国道	土木 (河川)
三井共同建設コンサルタント(株) 東北支社	阿武隈川下流瓢石排水樋管詳細設計 業務	(管理技術者) 横川 勝美	仙台市 青葉区	仙台市 河川国道	土木 (河川)
三井共同建設コンサルタント(株) 東北支社	赤川水系洪水予測システム改良検討 業務	(管理技術者) 福島健一郎	仙台市 青葉区	酒田 河川国道	土木 (河川)

令和5年度 東北支部会員 東北地方整備局 優良業務 事務所長表彰 一覧

企業等名	業務名	技術者氏名	企業所在地	所管事務所	業務区分
朝日航洋(株)	赤川流域レーザ計測	(主任担当者) 岡崎 知樹	仙台市区 仙台区	新庄河川	測量
阿武隈川上流玉川地区遊水地施設詳細設計業務八千代エンジニアリング・三協技術設計共同体	阿武隈川上流玉川地区遊水地施設詳細設計業務	(管理技術者) 秋山 和也	福島県 福島市	福島河川国道	土木 (河川)
いであ(株) 青森営業所	高瀬川水系洪水予測システム改良検討業務	(管理技術者) 滝口 大樹	青森県 青森市	高瀬川河川	土木 (河川)
いであ(株) 青森営業所	岩木川河川整備基本方針検討業務	(管理技術者) 堀江 克也	青森県 青森市	青森河川国道	土木 (河川)
磐城管内防災・構造物点検計画検討業務パスコ・応用地質設計共同体	磐城管内防災・構造物点検計画検討業務	(管理技術者) 大澤 昭久	東京都 目黒区	磐城国道	土木 (道路)
内川流域砂防施設等修正設計業務建設技術研究所・日本工営・復建技術コンサルタント設計共同体	内川流域砂防施設等修正設計業務	(管理技術者) 川瀬 樹一	仙台市区 青葉区	宮城南復興	土木 (砂防・地すべり)
(株)ウスマ地域総研	湯沢国道管内付属物点検業務	(管理技術者) 藤田 勝	秋田県 秋田市	湯沢河川国道	土木 (道路)
(株)ウスマ地域総研	遊佐象潟道路付属物設計業務	(管理技術者) 藤田 勝	秋田県 秋田市	秋田河川国道	土木 (道路)
エイト技術(株)	牛伏地区外用地調査等業務	(照査技術者) 佐々木政明 (主任担当者) 柳沢 辰次	青森県 八戸市	三陸国道	補償
エイト技術(株)	雄物川下流秋田地区防災拠点用地調査等業務	(主任担当者) 中川 秀一	青森県 八戸市	秋田河川国道	補償
応用地質(株) 東北事務所	高瀬川・小川原湖水辺現地調査(陸上昆虫類)業務	(管理技術者) 浅見 和弘	仙台市 宮城野区	高瀬川河川	土木 (環境調査)
応用地質(株) 東北事務所	磐城管内環境調査業務	(管理技術者) 沖津 二郎	仙台市 宮城野区	磐城国道	土木 (環境調査)
応用地質(株) 福島営業所	阿武隈川上流遊水地左岸地下水調査	(主任技術者) 山盛 邦生	福島県 福島市	福島河川国道	土木 (河川)
応用地質(株) 東北事務所	三春ダム水辺現地調査(鳥類調査)業務	(管理技術者) 沖津 二郎	仙台市 宮城野区	三春ダム	土木 (環境調査)
(株)オリエンタルコンサルタンツ 福島事務所	福島管内道路状況調査業務	(管理技術者) 山本 和司	福島県 郡山市	福島河川国道	土木 (環境調査)
(株)オリエンタルコンサルタンツ 盛岡事務所	一関遊水地関連施設等検討設計業務	(管理技術者) 伊藤 竜一	岩手県 盛岡市	岩手河川国道	土木 (河川)
(株)オリエンタルコンサルタンツ 秋田事務所	湯沢河川国道管内交通事故検討業務	(管理技術者) 松戸 努	秋田県 秋田市	湯沢河川国道	土木 (道路)
(株)オリエンタルコンサルタンツ 秋田事務所	秋田管内交通事策検討業務	(管理技術者) 松戸 努	秋田県 秋田市	秋田河川国道	土木 (道路)
(株)オリエンタルコンサルタンツ 福島事務所	会津防災道路トンネル設備概略設計業務	(管理技術者) 梶田 宏行	福島県 郡山市	郡山国道	土木 (トンネル)
(株)片平新日本技研 山形事務所	布倉地区橋梁設計業務	(管理技術者) 高橋 靖司	山形県 山形市	酒田河川国道	土木 (橋梁)

話 題

企業等名	業務名	技術者氏名	企業所在地	所管事務所	業務区分
川崎地質(株) 北日本支社	鳴瀬川ダムダムサイト地質調査	(主任担当者) 榊原 信夫	東京都 港 区	鳴瀬川 総合開発 工事	地 質
川崎地質(株) 北日本支社	最上川上流管内災害対応業務	(管理技術者) 大坪 智博	仙台市 宮城野区	山 形 河川国道	土 木 (河川)
(株)キタコン	岩木川ダム統合管理事務所流量観測 及び採水等作業	(主任技術者) 藤田 欣裕	青 森 県 弘 前 市	岩木川ダム 統合管理	測 量
(株)建設環境研究所	最上川中流水害リスク検討業務	(管理技術者) 松本 敬之	仙台市 宮城野区	新庄河川	土 木 (河川)
(株)建設環境研究所	津軽ダム水辺現地調査(魚類及び 陸上昆虫類調査)業務	(管理技術者) 沼沢 信一	仙台市 宮城野区	岩木川ダム 統合管理	土 木 (環境調査)
(株)建設環境研究所 東北支社	成瀬ダム地域活性化検討業務	(管理技術者) 綿貫 建	仙台市 宮城野区	鳴瀬ダム 工 事	土 木 (ダム)
(株)建設環境研究所 東北支社	鳥海ダム動物等調査	(管理担当者) 沼沢 信一	仙台市 宮城野区	鳥海ダム 工 事	土 木 (環境調査)
(株)建設環境研究所 東北支社	最上川上流大規模氾濫時減災対策 検討業務	(管理技術者) 富田 邦裕	仙台市 宮城野区	山 形 河川国道	土 木 (河川)
建設環境研究所・東邦技術設計 共同体	雄物川下流・子吉河川管理施設管理 検討業務	(管理技術者) 阿部 幸雄	仙台市 青 葉 区	秋 田 河川国道	土 木 (河川)
(株)建設技術研究所 東北支社	馬淵川基本高水流量検討業務	(管理技術者) 外崎 冬樹	仙台市 青 葉 区	青 森 河川国道	土 木 (河川)
(株)建設技術研究所 東北支社	鳥海ダム取水放流設備詳細設計業務	(管理技術者) 勝山 敏	仙台市 青 葉 区	鳥海ダム 工 事	土 木 (その他(機械))
(株)建設技術研究所 東北支社	七ヶ宿ダム総合点検業務	(管理技術者) 倉橋 宏	仙台市 青 葉 区	七ヶ宿ダム	土 木 (ダム)
(株)建設技術研究所 東北支社	北秋田地区補足設計業務	(管理技術者) 矢口 雅博 (照査技術者) 新屋 昌宏	仙台市 青 葉 区	能 代 河川国道	土 木 (道路)
(株)建設技術研究所 東北支社	四十四田ダム・御所ダム水辺現地 調査(底生動物外)業務	(管理技術者) 沼沢 信一	仙台市 宮城野区	北上川ダム 統合管理	土 木 (環境調査)
(株)建設技術研究所 盛岡事務所	北上川水系環境整備事業評価等検討 業務	(管理技術者) 大石 三之	岩 手 県 盛 岡 市	岩 手 河川国道	土 木 (環境調査)
(株)建設技術研究所 東北支社	摺上川ダム遠隔操作検討業務	(管理担当者) 濱田 和朗	仙台市 青 葉 区	摺上川ダム	土 木 (河川)
郡山国道事務所管内道路管理外 事業監理業務東北地域づくり・ 近代設計・パスク設計共同体	郡山国道事務所管内道路管理外事業 監理業務	(管理技術者) 吉田 広幸	仙台市 青 葉 区	郡山国道	土 木 (道路)
国際航業(株) 仙台支店	鳴子ダム堆砂測量	(主任技術者) 増田 峰雄	仙台市 若 林 区	鳴子ダム	測 量
(株)寒河江測量設計事務所	大笹生砂防堰堤用地調査等業務	(主任担当者) 滝田 健一	山 形 県 寒河江市	福 島 河川国道	補 償
三陸・南三陸管内橋梁点検業務 近代設計・三協技術・協和設計 設計共同体	三陸・南三陸管内橋梁点検業務	(管理技術者) 三浦 俊史	仙台市 宮城野区	東北技術	土 木 (橋梁)
三陸国道管内外道路管理・交通安全事業 監理業務東北地域づくり・エイト日本技 術開発・みちのくコンサル設計共同体	三陸国道管内外道路管理・交通安全 事業監理業務	(管理技術者) 加藤 武男	仙台市 青 葉 区	三陸国道	土 木 (道路)

企業等名	業務名	技術者氏名	企業所在地	所管事務所	業務区分
(株)三和技術コンサルタント	国道7号遊佐象潟道路用地調査等業務	(主任担当者) 須藤 千春	山形県 村山市	酒田 河川国道	補償
七ヶ宿ダム管理フォローアップ検討業務 水源環境センター・八千代エンジニアリング設計共同体	七ヶ宿ダム管理フォローアップ検討業務	(管理技術者) 瀧澤 靖明	東京都 千代田区	七ヶ宿ダム	土木 (ダム)
(株)庄内測量設計舎	丸森町砂防事業(五福谷川遊砂地外) 用地調査等業務	(主任担当者) 深澤弘一郎	山形県 庄内町	宮城南 復興	補償
新和設計(株)	国道121号 入田沢地区災害応急 復旧測量調査業務	(主任技術者) 細谷 健介	山形県 米沢町	山形 河川国道	測量
新和設計(株) 岩手支店	盛岡南道路路線測量業務	(主任技術者) 齋藤 恵太	岩手県 宮古市	岩手 河川国道	測量
仙台河川国道管内交通安全事業 外監理業務東北地域づくり・近代設計設計共同体	仙台河川国道管内交通安全事業 外監理業務	(管理技術者) 亀井 督悦	仙台市 青葉区	仙台 河川国道	土木 (道路)
セントラルコンサルタント(株) 東北支社	大衡地区外道路設計業務	(管理技術者) 佐藤 拓弥	仙台市 青葉区	仙台 河川国道	土木 (道路)
セントラルコンサルタント(株) 東北支社 福島営業所	阿武隈川上流小作田橋上流右岸地区 樋門詳細設計業務	(管理技術者) 高橋 晃	福島県 福島市	福島 河川国道	土木 (河川)
大日本ダイヤコンサルタント(株) 東北支社	南三陸沿岸国道管内トンネル点検 業務	(管理技術者) 水島 秀明	仙台市 青葉区	南三陸 沿岸国道	土木 (トンネル)
大日本ダイヤコンサルタント(株) 東北支社	成瀬ダム右岸地すべり地質調査	(主任技術者) 伊藤 靖雄	仙台市 青葉区	鳴瀬ダム 工事	地質
大日本ダイヤコンサルタント(株) 東北支社	山形管内道路軟弱地盤解析業務	(主任技術者) 佐藤 春夫	仙台市 青葉区	山形 河川国道	地質
大日本ダイヤコンサルタント(株) 東北支社	秋田河川国道管内トンネル点検業務	(管理技術者) 水島 秀明	仙台市 青葉区	秋田 河川国道	土木 (トンネル)
中央コンサルタンツ(株) 仙台支店	青森国道管内電線共同溝設計業務	(管理技術者) 前田 修	仙台市 青葉区	青森 河川国道	土木 (道路)
中央コンサルタンツ(株) 仙台支店	鳴瀬川練牛地区外築堤修正設計等 業務	(管理技術者) 鈴木 亮一	仙台市 青葉区	北上川下 流河川	土木 (河川)
中央コンサルタンツ(株) 山形事務所	山形管内交通安全対策設計業務	(管理技術者) 前田 修	山形県 山形市	山形 河川国道	土木 (道路)
(株)長大 仙台支社	鳴瀬川ダム付替国道7号橋詳細設計 業務	(管理技術者) 坂田 浩一	東京都 中央区	鳴瀬川 総合開発 河川	土木 (橋梁)
(株)東建工営	能代管内河川技術資料作成業務	(管理技術者) 菊地 晃	宮城県 名取市	能代 河川国道	土木 (その他(発注者 支援業務))
(株)東建工営	山形管内道路改築関係技術資料作成 業務	(管理技術者) 吉田 博史	宮城県 名取市	山形 河川国道	土木 (その他(発注者 支援業務))
東邦技術(株)	米代川樋門樋管無動力化設計業務	(管理技術者) 佐々木 歩	秋田県 大仙市	能代 河川国道	土木 (河川)
(株)東京建設コンサルタント	雄物川下流河川整備計画検討業務	(管理技術者) 内田 一裕	秋田県 秋田市	秋田 河川国道	土木 (河川)
(株)ドーコン 福島事務所	藤大田地区橋梁予備設計業務	(管理技術者) 石川 雅人	福島県 福島市	郡山国道	土木 (橋梁)

話 題

企業等名	業務名	技術者氏名	企業所在地	所管事務所	業務区分
鳴瀬川総合開発CIM運用監理業務 八千代エンジニアリング・日本建設情報総合センター設計共同体	鳴瀬川総合開発CIM運用監理業務	(管理技術者) 吉田 武司	東京都 台東区	鳴瀬川 総合開 発工 事	土木 (ダム)
日栄地質測量設計(株)	いわき地区道路附属物点検業務	(管理技術者) 福田 春夫	福島県 いわき市	磐城国道	土木 (道路)
日本工営(株) 仙台支店	高瀬川管内河川管理施設遠隔監視・ 操作検討業務	(管理技術者) 津島 博志	仙台市 青葉区	高瀬川 河川	土木 (河川)
日本工営(株) 山形事務所	最上川上流押切地区構造物詳細設計 業務	(管理技術者) 五十嵐 徹	山形県 山形市	山形 河川国道	土木 (河川)
日本工営(株) 福島事務所	磐城国道管内橋梁補修設計業務	(管理技術者) 橋口 健一	福島県 福島市	磐城国道	土木 (橋梁)
日本工営(株) 秋田事務所	森吉山ダム貯水池地すべり調査観測 業務	(主任技術者) 井上 剛	秋田県 秋田市	能代 河川国道	地質
日本工営(株) 北東北事務所	四十四田ダム再生堤体材料採取計画 検討業務	(管理技術者) 森 貴信	岩手県 盛岡市	北上川ダム 統合管理	土木 (ダム)
日本工営(株) 仙台支店	みちのく公園運営維持管理検討他 業務	(管理技術者) 都築 美波	仙台市 青葉区	東北国営 公園	土木 (その他(公園))
日本工営(株) 山形事務所	国道121号 入田沢地区災害応急復 旧設計業務	(管理技術者) 佐々木博之	山形県 山形市	山形 河川国道	土木 (道路)
日本振興(株)東北支店	会津若松地区外改築工事監督支援 業務	(管理技術者) 鈴木 和志	仙台市 青葉区	郡山国道	土木 (その他(発注者 支援業務))
能代管内交通安全事業外監理業 務東北地域づくり・近代設計設 計共同体	能代管内交通安全事業外監理業務	(管理技術者) 東海林 寿	仙台市 青葉区	能代 河川国道	土木 (道路)
パシフィックコンサルタンツ(株) 福島事務所	福島管内交差点予備設計業務	(管理技術者) 白石 雅人	福島県 郡山市	福島 河川国道	土木 (道路)
パシフィックコンサルタンツ(株) 山形事務所	最上川下流河道計画等検討業務	(管理技術者) 堀合 孝博	山形県 鶴岡市	酒田 河川国道	土木 (河川)
パシフィックコンサルタンツ(株) 青森事務所	青ぶな山トンネル詳細修正設計業務	(管理技術者) 加藤 友章	青森県 青森市	青森 河川国道	土木 (トンネル)
パシフィックコンサルタンツ(株) 東北支社	国道349号丸森地区災害復旧事業効 果資料収集整理業務	(管理技術者) 高味 亮太	仙台市 青葉区	宮城南 部復興	土木 (道路)
(株)パスコ 福島支店	郡山国道管内航測図化業務	(主任技術者) 佐々木和宏	福島県 福島市	郡山国道	測量
(株)パスコ 仙台支店	北上川下流管内三次元管内図改良 業務	(主任技術者) 近 政英	仙台市 宮城野区	北上川下 流河川	測量
(株)福田水文センター	阿武隈川上流河道分析・評価検討 業務	(管理技術者) 中本 篤嗣	北海道 札幌市	福島 河川国道	土木 (河川)
(株)福山コンサルタント	三陸国道管内整備効果検討業務	(管理技術者) 中嶋 雄介	福岡県 福岡市	三陸国道	土木 (道路)
(株)福山コンサルタント 秋田営業所	横手大曲道路計画検討業務	(管理技術者) 田村 友治	秋田県 秋田市	湯沢 河川国道	土木 (道路)
(株)福山コンサルタント 北東北事務所	岩手管内整備効果検討業務	(管理技術者) 平柳 圭	福岡県 福岡市	岩手 河川国道	土木 (道路)

企業等名	業務名	技術者氏名	企業所在地	所管事務所	業務区分
(株)福山コンサルタント 福島営業所	福島管内道路調査業務	(管理技術者) 岡部 和広	福島県 福島市	福島 河川国道	土木 (道路)
(株)復建技術コンサルタント	石巻沢田地区道路予備設計業務	(管理技術者) 江口健二郎	仙台市 青葉区	仙台 河川国道	土木 (道路)
(株)復建技術コンサルタント	葛目地区橋梁詳細設計業務	(管理技術者) 石橋 努 (照査技術者) 米山 貴光	仙台市 青葉区	三陸国道	土木 (道路)
(株)復建技術コンサルタント 福島支店	郡山国道橋梁補修設計業務	(管理技術者) 水城 亨	福島県 郡山市	郡山国道	土木 (橋梁)
(株)復建技術コンサルタント 山形支店	吹浦高架橋(当山地区外)橋梁設計業務	(管理技術者) 田村 冬樹	山形県 山形市	酒田 河川国道	土木 (橋梁)
丸森地区河川・砂防等工事監督 支援業務 中野建設・日本振興 設計共同体	丸森地区河川・砂防等工事監督支援 業務	(管理技術者) 大畑 正美	仙台市 大崎市	宮城南 部復興	土木 (その他(発注者 支援業務))
水沢地区補足設計業務昭和土木 設計・復建技術設計共同体	水沢地区補足設計業務	(管理技術者) 牧野 仁	岩手県 紫波郡 矢野町	岩手 河川国道	土木 (橋梁)
三井共同建設コンサルタント(株) 東北支社	さみだれ大堰調査検討業務	(管理技術者) 平 和博	仙台市 青葉区	酒田 河川国道	土木 (河川)
三井共同建設コンサルタント(株) 福島営業所	阿武隈川上流鏡石地区遊水地施設 詳細設計業務	(管理技術者) 横川 勝美	福島県 郡山市	福島 河川国道	土木 (河川)
三春ダム管理評価等検討業務 水源地環境センター・応用地質 設計共同体	三春ダム管理評価等検討業務	(管理技術者) 原 俊彦	東京都 千代田区	三春ダム	土木 (ダム)
陸奥テックコンサルタント(株)	阿武隈川上流御代田地区堤防詳細 設計業務	(管理技術者) 三浦 保夫	福島県 郡山市	福島 河川国道	土木 (河川)
陸奥テックコンサルタント(株)	相双地区道路附属物点検業務	(管理技術者) 小室 浩	福島県 郡山市	磐城国道	土木 (道路)
陸奥テックコンサルタント(株)	摺上川ダム流量観測外業務	(主任技術者) 渡辺 康友	福島県 郡山市	摺上川ダム	測 量
八千代エンジニアリング(株) 北東北統括事務所	南三陸管内道路構造物補修補強設計 業務	(管理技術者) 山田 努	岩手県 盛岡市	南三陸沿 岸国道	土木 (橋梁)
八千代エンジニアリング(株) 北日本支店	長井ダム堤体等設計検討業務	(管理技術者) 千葉 淳哉	仙台市 青葉区	最上川ダム 統合管理	土木 (ダム)
八千代エンジニアリング(株) 北日本支店	月山ダム堤体観測監視業務	(管理技術者) 繁田 淳吾	仙台市 青葉区	月山ダム	土木 (ダム)
(株)吉田測量設計	鳴瀬川総合開発嶽山地区(付替国道 その2)用地調査等業務	(主任担当者) 田家 秀紀	岩手県 盛岡市	鳴瀬川 総合開 発工	補 償
米代川三次元点群測量バスコ・ ウスマ地域総研設計共同体	米代川三次元点群測量	(主任技術者) 野口 卓	秋田県 秋田市	能代 河川国道	補 償
DX研修用デジタル教材検討業務 日本工営・フォーラムエイト設 計共同体	DX研修用デジタル教材検討業務	(管理技術者) 神林 翠	東京都 千代田区	東北技術	土木 (その他(情報))

令和5年度 東北支部会員 東北地方整備局 優良業務 部長表彰 一覧

企業等名	業務名	技術者氏名	企業所在地	所管事務所	業務区分
東北地方整備局管内橋梁設計検討業務 パシフィックコンサルタンツ・セントラルコンサルタンツ・東京建設コンサルタント設計共同体	東北地方整備局管内橋梁設計検討業務	(管理技術者) 石井 一人	仙 台 市 区 青 葉 区	道 路 部	土 木 (橋梁)
日本工営(株) 仙台支店	東北管内ダム操作等高度化検討業務	(管理技術者) 今井 素生	仙 台 市 区 青 葉 区	河 川 部	土 木 (ダム)

令和4年度 環境専門委員会セミナー開催報告

技術部会 環境専門委員長 樋村 正雄

1. 環境専門委員会セミナーについて

技術部会環境専門委員会では、会員各社の建設コンサルタント業務に関する環境関連技術の修得・向上に寄与することを目的として、毎年1回、学術研究機関や行政関係機関などから講師をお招きして、専門委員会セミナーを開催しています。

セミナーのテーマは、環境専門委員会で、「今、最も聞きたい話題」を毎年選定しており、最近は、新型コロナウイルス感染症対応で実施しなかった令和2年度を除き、下表に示すテーマで開催してきました。

年度	テーマ
H27	ダム事業における環境に関する動向について
H28	自然環境調査・保全措置の最新技術
H29	グリーンインフラの活用と今後の動向
H30	河川環境管理の現在とこれから
R1	大規模出水による河川環境への影響と河川工事計画・管理への提言
R2	(新型コロナウイルス対応によりとりやめ)
R3	東日本大震災10年を迎え復興事業と沿岸環境保全の取り組みについて

2. 令和4年度セミナーについて

令和4年度のセミナーは、新型コロナウイルスの影響が継続していることもあり、対面形式ではなく、建設コンサルタンツ協会東北支部から、ウェビナー形式で開催しました。

セミナーの講師には「河川CIM標準化検討小委員

会」のメンバーとして、川づくりの高度化に向けた河川CIM標準化の検討・普及に精力的に取り組まれてきた、公益財団法人リバーフロント研究所主席研究員中村圭吾様をお招きしました。

中村主席研究員には、平成30年度に土木研究所上席研究員のお立場で「河川環境管理の現在とこれから」をテーマにご講演をいただきました。昨今の建設分野でのDX技術の進展や3次元データの活用が、河川環境分野でも急速に進んでいることを踏まえ、令和4年度のセミナーでは、「河川におけるDX・3次元化」をテーマに、平成30年当時からの技術の進展や、3次元データを活用した川づくり・河川管理の現況についてご紹介いただくとともに、最新の検討状況や今後の展望についてご講演頂きました。

3. 令和4年度セミナーの概要

名称

令和4年度 環境専門委員会セミナー

目的

会員各社の建設コンサルタント業務に関する環境関連技術の修得・向上に寄与する

開催日時および開催場所

令和5年3月9日(木) 13時00分～15時00分

Microsoft Teams によるウェビナー

参加対象者

対象者：協会会員および国土交通省職員

参加料：無料

講師

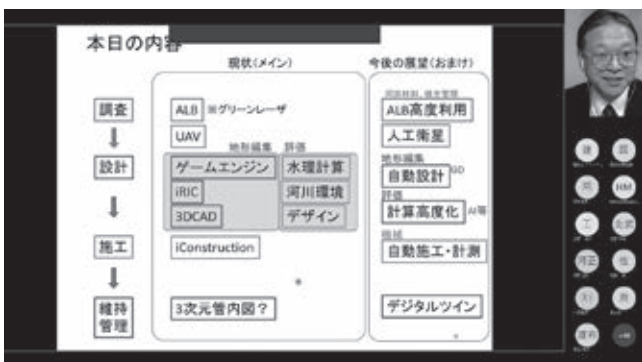
中村 圭吾 氏

(公益財団法人 リバーフロント研究所 主席研究員)

4. セミナーの講演内容



▲樋村委員長より開会の挨拶（配信画面のキャプチャ）



▲中村主席研究員によるご講演

セミナーでは、河川を対象とした調査→設計→施工→維持管理の一連の流れの中で、DXや3次元データの活用について、最新の事例を交えた紹介がありました。

主なトピックスは以下のとおり。

- ▶調査段階では、グリーンレーザ（ALB）による河川の3次元測量（点群データ化）から、立体的な「素のままの」川が扱えるようになり、今後の、いい川づくりのために、必須の技術となるだろう。
- ▶ICT建設機器を使った3次元施工が、平成28年頃から急激に現場で活用されはじめている。
- ▶ICT施工のため、調査で得られた3次元測量データから3次元設計を行う必要があるが、この部分が課題。河川CIM標準化検討小委員等で「河川CIM」の標準化に向けた考え方を提案。
- ▶建設分野での利用が増加しているゲームエンジンを河川の環境検討に用いる試みも進んでいる。河川の

形状や施工後の完成形状をリアルに再現できることから、景観検討や住民との合意形成にも適したツール。

- ▶荒川下流河川事務所で進められている、河川の「3次元管内図」の紹介。3次元管内図を軸とした新しい河川マネジメント手法が構築されつつある。
- ▶河川の3次元データ（点群データ）は今後オープンデータ化が進む予定。いくつかの1級河川では既に公開済み。建設コンサルタントには、3次元データを上手く活用して、いい川づくりに繋げる知恵を出してほしい。
- ▶技術の急速な進歩により、面白い（かつ競争が激しい）時代に既に入っている。
- ▶国際的な潮流から、生物多様性など環境に資金が流れる時代は必ず来ると想定されるので、準備が必要。



▲藤田副委員長とのディスカッション

5. 所感

平成30年度のご講演では、河川でも3Dの時代が来るとのご発表がありましたが、令和4年のご講演から、想像以上に時代の流れは早く、3Dデータを基盤とした、河川の調査、設計、施工、維持管理の時代がすぐそこまで来ていると感じました。一方で、先行事例の多くが九州や北陸、関東などであり、東北ではこの流れに一步乗り遅れている感があります。コンサルタントとして、技術の進歩や時代の流れに対するアンテナを高くし、技術の研鑽を積むことが重要であることを改めて認識しました。

第21回（令和4年度）高校生「橋梁模型」作品発表会の開催報告

総務部会長 長 南 憲 一

1. はじめに

高校生「橋梁模型」作品発表会は、平成14年度から毎年開催され、令和4年度で21回目の開催となります。第1回目は宮城県内の土木系学科からの応募でしたが、現在は東北6県からの参加となっています。

本発表会は、未来の技術者である高校生を対象に、橋の模型作りの体験（楽しさ、創意工夫）を通じて、橋の知識の習得とともに、社会を支える基盤となる橋等の土木構造物への理解を深めて頂くことを目的に開催されております。

2. 作品の応募要項

応募作品には「作品の課題」と部門毎の規定が設定されています。

■作品の課題

【模型部門】

- ①国内外を問わず実在する橋
- ②国内外を問わず過去に存在した橋
- ③実際にはない形式・構造の橋、夢のある橋

◇作品寸法

長さ 1.5m以下、平面積（土台含む） 0.6㎡以下、
高さ 1.0m以下、重さ 10kg以下

【デジタル部門】

- ①国内外を問わず実在する橋の3D-CADデータ
- ②国内外を問わず過去に存在した橋の3D-CADデータ
- ③実際にはない形式・構造の橋、夢のある橋の3D-CADデータ

◇デジタル部門（デジタルデータ）

3D-CADデータを変換した「3D-PDFデータ」
上記に加え「3D-CADを変換した動画（MPEG等）
データの提出可（3Dアニメ動画（最長3分以内）」

3. 建設コンサルタンツ協会の担当役割

建設コンサルタンツ協会総務部会は、実行委員会として協力を行いました。実行委員会は、東北地方整備局東北技術事務所を事務局とし、建設コンサルタンツ協会の他4団体で組織され、第1回で前年の実施報告、今年度の実施（案）の議題について審議し、第2回では作品の申込状況や審査員の推薦依頼を受けます。

4. 審査方法

昨年は、コロナ禍であることから一次審査会を「最終審査」として実施しましたが、今年は令和5年1月24日に一次審査会を国土交通省東北地方整備局東北技術事務所で開催しました。審査員の構成は、審査委員長を東北学院大学工学部武田教授、審査員は各構成団体より1名となっていますので、例年技術部会にお願いをさせて頂いております。

今回は、15高校から24作品の応募がありました。一次審査では、「構造」「外観」「アイデア」を観点に、審査・評価します。二次審査では、一次審査の審査結果に、二次審査会へ来場された一般参加者の投票を加点し、更に実行委員会より選出された審査員の作品プレゼンテーションの評価が加点された合計の平均をもとに審査・評価します。これまでの審査は上記3つの観点からなる得点を合計した「総合（合計）得点」により行ってきましたが、より模型の個性を評価できる部門賞を創設し、該当する賞の第1位から第3位までの作品に賞を授与します。また、上記の各賞に加え、「想像橋」に対して独立した「想像橋部門賞」を、今後のDX化を見据えた「デジタル部門賞」を、新規応募校及び生徒が入れ替わる直近3年間の間に応募のなかった応募校の作品に対し「奨励賞」が設けられました。

①最優秀賞（総合優勝）1作品

構造+外観+アイデア+製作プレゼンテーションを含めた総合評価の最高位

- ②ストラクチャル大賞（構造部門）3作品
 - ③ビジュアル大賞（外観部門）3作品
 - ④アイデア大賞（アイデア部門）3作品
 - ⑤イマジネーション大賞（想像橋部門）1作品
 - ⑥デジタル大賞（CAD動画・データのみ提出限定部門）
1作品
 - ⑦模型製作プレゼンテーション大賞（プレゼン発表）
2作品
 - ⑧審査員特別賞（特別賞）1作品
 - ⑨入賞 該当作品数は変動
 - ⑩奨励賞（ニューフェイス賞）1作品
- ※②、③、④、⑦は重複受賞あり。

5. 作品発表会

令和4年度（2022年度）高校生「橋梁模型」作品発表会は、令和5年2月15日に3年ぶりに実会場（エル・パーク仙台）で開催、会場に詰めかけた約40名の高校生の熱気に圧倒される一日になりました。当日来場できなかった高校は、WEBを活用してプレゼン発表を行うなど、実開催とWEB活用のハイブリッド方式としました。



写真-1 会場全景

当日は、実行委員長の開会あいさつから始まり、参加各校による「プレゼンテーション」、(一社)日本橋梁建設協会東北事務所から戦略広報WG（ワーキンググループ）委員の方々を講師に迎えての「特別講演」などが開催されました。審査結果発表では23作品の

うち、実在橋が21作品、想像橋が2作品で、入選は実在橋の12作品となりました。デジタル部門の応募も1作品ありましたが、データ提出が一次審査に間に合わず、残念ながら評価することができませんでした。

受賞の喜びを身体全体で表している姿や表彰状授与での製作者による受賞コメント、審査員長からは受賞全作品に及ぶ丁寧な審査講評、参加者の笑顔あふれる記念撮影と、充実した内容で開催されました。



写真-2 記念撮影

6. おわりに

高校生「橋梁模型」発表会は、現在21回目まで実施されてきました。令和5年度も実施される予定で進められております。

平成14年度から現在まで、建設関連業を目指す土木学科系の学生が、より建設業に興味を持てるような発表会は素晴らしい取り組みであり、参加させて頂けることに感謝いたします。

建設コンサルタンツ協会東北支部と致しましても、近い将来の建設業を、また未来を担う若い技術者がさらに建設業に興味をもって頂けるよう、継続した活動を通じて努力して参りたいと思います。

なお、第21回（令和4年度）高校生「橋梁模型」の素晴らしい作品集は、下記のURLからご覧下さい。

※) 国交省東北地方整備局東北事務所ホームページ内
第21回（令和4年度）高校生「橋梁模型」作品集
<https://www.thr.mlit.go.jp/tougi/kyoryomokei/R4/index.html>

創業50年・そして未来へ向けて

株式会社三洋コンサルタント 岩手営業所 大澤 公延

1. 創業50年 当社の歩み

当社は、昭和47年に港湾・漁港の設計を行う建設コンサルタント会社として創業しました。

当初は、九州・山口を中心にその後、中四国・関東・東北にエリアを拡大し業務面でも海洋調査・橋梁・上下水道・河川・道路にも力を入れてきました。昨年50周年を向え歴史を刻む、北九州市本社の企業です。

2. 技術と実績

これからのキーワードは『防災』『維持管理』『ICT』の3本柱と考え、これまでの実績を土台として、新たな分野への取組みも積極的に行っています。

3. 設計業務

防災関連では、既存施設の耐波・耐震・耐津波改良、津波避難計画策定と避難施設の設計、維持管理では、経験とICT化を組合せた、新たな点検・診断・設計の提案、ICT化推進では、BIM/CIMの導入による図面の3次元モデル化を進めています。更に、豊富な海洋・水産資源を有効活用するための人工海浜、遊歩道、緑地、マリナー、釣棧橋、漁礁等の利用や景観に配慮した設計も行っています。

4. 調査業務

測量、地質調査のほか海域環境調査として水質・底質・流況・波浪・飛砂調査等、海生生物調査として底生生物・魚介類・藻場調査等により、海域環境と水産資源の保全・創出に寄与しています。

また、ICTの取組みとして、ドローンを導入、点検や測量等の現場作業効率化を図ってきました。最近では水中ドローンも導入、調査業務のさらなる可能性向上や、新たな価値創出に取り組んでいます。

5. 水理実験及び数値解析

国土交通省からの受注業務として、主に海洋構造物の水理特性や構造特性を把握することを目的として実施しています。最近では、高度かつ実用的な数値解析プログラムを導入し、複雑な現象の解析を迅速かつ容易に行う事が可能となり、水理実験結果との校正により、実験内容の考察が可能となりました。

6. 50年間変わらぬ社風

創業時は8人、目標に向かって日々勉強、困った時には気軽に相談し合える職場でした。全員が同じ方向を向き、切磋琢磨する小規模ながら家族的な会社として歩み始めました。「風通しの良い」「努力やプロセスなどを重視する」「チームワークを重んじた温かい」社風は今に引き継がれています。現在は社員も10倍、また世の中の価値観も変わってきましたが「話をよく聞く上司」と「部下が話しやすい雰囲気」により、社風を守っていきたいと考えております。

7. 未来に向けて

太古から、指導者は治水などの土木工事により民の生命や財産を守るとともに、水資源の確保による安定した農業のために、大規模な灌漑工事を行ってきました。

時代が下ると、商工業の発展のために道路や海運などの交通インフラの整備が求められましたが、これにも土木工事が大きな役割を果たしました。科学技術の多くは、土木技術から分化発達したものとされており、土木技術は「すべての技術の母」と言われ、人類の発展を支えてきました。当社は、これまで多くの社会資本整備に努めてきましたが、今後も我が国の国土を守り、産業発展を支えていくために、健全経営に努めるとともに、人材育成により社会に貢献してまいります。

技術部会の紹介

技術部会長 松尾 新二郎

1. はじめに

建設コンサルタンツ協会東北支部の技術部会は、部会長と副部会長2名の支部役員と8つの専門委員会（技術交流専門委員会、構造専門委員会、道路専門委員会、環境専門委員会、河川専門委員会、地盤専門委員会、インフラメンテナンス専門委員会*、ICT専門委員会）のメンバーにて構成されています。各専門委員会は、委員長と副委員長が2名、それに概ね10~20数名の委員からなり、それぞれの専門委員会毎に活動を行っています。

（※令和4年12月より防災専門委員会から名称を変更）

令和5年4月には委員の改選が行われ、総勢125名の新たなメンバーが決まり、活動をスタートしました。

部会長・副部会長および専門委員会の委員長・副委員長

組織	役職	氏名	所属
支部役員	部会長	松尾新二郎	日本工営(株)
	副部会長	大石 健二	パシフィックコンサルタンツ(株)
	副部会長	柳橋 巧	セントラルコンサルタント(株)
技術交流専門委員会	委員長	今泉 敏郎	(株)復建技術コンサルタント
	副委員長	大木 高志	(株)復建技術コンサルタント
	副委員長	荒閑 正二	(株)オリエンタルコンサルタンツ
構造専門委員会	委員長	石井 一人	パシフィックコンサルタンツ(株)
	副委員長	向江 正夫	(株)東京建設コンサルタント
	副委員長	石橋 努	(株)復建技術コンサルタント
道路専門委員会	委員長	岡田 篤	大日本ダイヤコンサルタント(株)
	副委員長	木村 重喜	(株)オリエンタルコンサルタンツ
	副委員長	木下 正浩	千代田コンサルタント(株)
環境専門委員会	委員長	樋村 正雄	いであ(株)
	副委員長	藤田 大知	応用地質(株)
	副委員長	村山 元	日本工営(株)
河川専門委員会	委員長	村上 幸治	(株)エイト日本技術開発
	副委員長	佐藤 亮	(株)菊池技研コンサルタント
	副委員長	柴崎 進	(株)復建技術コンサルタント
地盤専門委員会	委員長	榊原 信夫	川崎地質(株)
	副委員長	橋本 智雄	中央開発(株)
	副委員長	早乙女 勉	日本工営(株)
インフラメンテナンス専門委員会	委員長	尾崎 裕司	日本工営(株)
	副委員長	松山 一昭	大日本ダイヤコンサルタント(株)
	副委員長	東川 佳弘	セントラルコンサルタント(株)
ICT専門委員会	委員長	市川 健	(株)復建技術コンサルタント
	副委員長	審良 郁夫	(株)オリエンタルコンサルタンツ
	副委員長	佐久間謙史	パシフィックコンサルタンツ(株)

2. 技術部会の活動概要

技術部会は、全体としての活動と各専門委員会それぞれでの定例活動に大きく分けられます。

(1) 技術部会全体の主な活動

技術部会全体としての活動の一つは、部会・専門委員長会議を年数回開催し、各専門委員会の活動進捗の確認や役員会からの連絡事項の報告などを行っています。二つ目は、近年、東北地方でも豪雨災害が頻発化・激甚化していますが、これら自然災害が発生した場合に、国や自治体、民間等のインフラ施設管理者から災害協定に基づく緊急対応要請があります。その際には技術交流専門委員会が中心となり当部会から要請事項を協会会員会社へ発信し、対応可能な会社を確認・リストアップする等の対応を行っています。令和4年度は、宮城県北部での7月豪雨災害、青森・秋田・山形県での8月豪雨災害に対して延べ29件の要請に対応しました。三つ目は、今期からスタートする活動ですが、「東北におけるインフラ整備構想の策定と提案」の検討です。これについては、東北支部で既に平成30年にとりまとめました冊子「TOHOKU復興から創生そして近未来への提言」をもとに、このコンテンツを利用して動画作成・配信などを検討する予定です。



「TOUHOKU復興から創生そして近未来への提言」パンフレット

(2) 各専門委員会の主な活動

各専門委員会の主な活動は、それぞれの専門技術分野（道路、構造、河川、環境など）に応じた技術研修会への講師派遣、技術士模擬面接講習会の実施、現場見学会・技術講習会の企画・開催、大学へのリクルート活動、様々な行政機関からの技術マニュアル等に関する問合せへの対応等を行っています。令和4年度に行った主な講師派遣先は、以下に示す機関でした。

東北地方整備局、青森県建設技術センター、岩手県土木技術振興協会、宮城県土木部、宮城県建設センター、仙台市、山形県国土整備部、福島県農林水産部・土木部、ふくしま市町村建設支援機構

3. 令和5年度技術部会総会の報告

令和5年度の技術部会総会を6月1日（木）にパレス平安にて開催しました。出席者は部会長、副部会長、専門委員会委員長、同副委員長の計22名でした。議事は、以下に示すように令和4年度の事業報告ならびに令和5年度の事業計画及び予算等についての報告・説明を行いました。総会後には、久しぶりに対面での懇親会を開催し、お酒を酌み交わしながら歓談し大変盛況でした。

- (1) 令和4年度 技術部会事業報告
- (2) 令和4年度 各専門委員会の活動報告
 - ・技術交流専門委員会
 - ・構造専門委員会
 - ・道路専門委員会
 - ・環境専門委員会
 - ・河川専門委員会
 - ・地盤専門委員会
 - ・インフラメンテナンス専門委員会
 - ・ICT専門委員会
- (3) 令和5年度 技術部会事業計画及び予算
- (4) 技術部会内規改訂について
- (5) 令和5年度技術部会名簿の確認
- (6) 「NEXCO 東日本東北支社との災害応急対策業務に関する確認書」について
- (7) 「TOUHOKU 復興から創生そして近未来への提言」について



技術部会総会の様子



懇親会の様子

4. おわりに

当技術部会は、東北地域に在籍している多数の建設コンサルタント技術者にて構成される東北支部の要の組織です。

これまでの活動においても、東北地域における防災・減災、国土強靱化、インフラ整備・維持管理などに関連した専門技術等について、発注者や協会会員のみなさまへ様々なサポートを行ってまいりました。

これからは、もちろんコロナ禍が落ち着くことを前提としてですが、現場見学会や対面での意見交換会、懇親会などを企画・開催し、現場の面白さや楽しさ、重要性を知る機会づくりならびに直接的なコミュニケーションや人脈形成の機会づくりなど、コロナ禍で制限されてきた活動をより活発に進めていきたいと考えています。

技術部会 インフラメンテナンス専門委員会紹介

技術部会 インフラメンテナンス専門委員長 尾崎 裕司

1. 設置の経緯

インフラメンテナンス専門委員会は、防災専門委員会が名称変更されたものです。

前身の防災専門委員会は、社会資本ストックが増大し道路管理事業の重要性が増す中で、効率的かつ確実な点検・補修を通して国民の安全・安心の確保を実現させることを目的として、トンネル、擁壁、ボックスカルバート等における災害や経年劣化による事態及び変状を検討対象として、平成26年度に設置されました。

その後の活動を行っていく中で、委員会の中で以下のような議論がなされました。

- 防災＝災害対応のイメージが大きいものの、自然災害対応は地盤専門委員会や河川専門委員会など他の専門委員会が継続的に行っている。
- 一方、維持管理・保全に関しては、道路構造物ストックに対する課題出し、変状の早期発見、効率的な対策案などの研究についてのニーズがあるほか、道路構造物、附属物等の定期点検により蓄積されてきた知見の整理や提言が可能である。

これらの意見が技術部会で審議され、防災専門委員会の設置から10年を経て、道路構造物の老朽化対応、維持管理、保全を活動の中心とするインフラメンテナンス専門委員会が立ち上がりました。

2. 活動方針

インフラメンテナンス専門委員会では、名称変更に向けた議論の中で上がった以下の課題等について、活動テーマとしていくこととしました。

- ① 道路構造物の維持管理・保全に関する課題出し
- ② 各種点検要領の改訂等に関する情報発信
- ③ 道路構造物の維持管理・保全の効率化に向けた、変状等の早期発見や効率的な対策案などの研究

④ 道路構造物、附属物等の定期点検により蓄積されてきた知見の整理や提言

⑤ 令和4年度から運用が開始された国土交通省の「全国道路施設点検データベース」に関する課題抽出、改善への働きかけ

これらのほか、トンネル、ボックスカルバート、シェッド、その他道路構造物に関する緊急対応窓口、講師依頼への対応、技術講習会や現地見学会の開催、建設部門－トンネルの技術士試験支援を実施します。

3. 委員構成

インフラメンテナンス専門委員会のメンバーは表に示す15名です。点検・診断・補修設計等、維持管理分野を専門とする委員のほか、橋梁や道路構造物の新設設計、地質調査解析等、多彩な委員構成となっています。

委員（令和5－6年度）

役職	氏名	所属
委員長	尾崎 裕司	日本工営(株)
副委員長	松山 一昭	大日本ダイヤコンサルタント(株)
副委員長	東川 佳弘	セントラルコンサルタント(株)
委員	小原 洋	八千代エンジニアリング(株)
委員	田村 整	新和設計(株)
委員	洞庭 敏昭	(株)オリエンタルコンサルタンツ
委員	前田 賢二	パシフィックコンサルタンツ(株)
委員	矢口 雅博	(株)建設技術研究所
委員	山下 智士	(株)復建技術コンサルタント
委員	時田 康生	いであ(株)
委員	伊藤 信生	(株)庄内測量設計舎
委員	大澤 昭久	(株)パスコ
委員	鈴木 達也	(株)ダイエツ
委員	住 武人	川崎地質(株)
委員	鷲見 英信	(株)エイト日本技術開発

以上。

2023年度の活動方針及び体制について

総務部会 若手の会 委員長 小田嶋 健 太

1. 若手の会の目的

平成28年7月に設立された若手の会は、現在8年目に突入している。若手の会は、東北地方や建コン業界の“これから”について若手技術者が議論を交わし、交流を深める場をつくることで、若手の力で業界を活性化することが目的である。

現在まで、建コン若手技術者を対象とした「各県交流会」や東北地方整備局職員との「国交省交流会」、若手技術者アンケート等の活動を実施している。コロナ禍においても、WEB会議システムの活用により活動を継続し、若手技術者が議論を交わし、交流を深める場づくりを進めてきた。

2. 委員会のメンバー

令和5年度は、新規メンバーの加入やメンバー交代があり、総勢22名で活動している。20代技術者や女性技術者も多く、新しい発想や意見を活発に出し合い、活動の場を広げている。

▼令和5年度若手の会メンバー

委員長	小田嶋 健 太	(株)復建技術コンサルタント	
副委員長	椎 名 昌 士	大日本コンサルタント(株)	
幹 事	角力山 柊	日本工営(株)	
〃	真 嶋 遊	中央コンサルタンツ(株)	
委 員	酒 井 里佳子	三協コンサルタント(株)	調査WGリーダー
〃	富 田 毅	(株)オリエンタルコンサルタンツ	
〃	天 野 麻里亜	いであ(株)	
〃	古 里 駿	(株)長大	
〃	小 林 光司郎	応用地質(株)	イメージWGリーダー
〃	南 まさし	パシフィックコンサルタンツ(株)	
〃	岩 谷 直 貴	(株)建設技術研究所	
〃	東 倉 弘 晃	三井共同建設コンサルタント(株)	交流会WGリーダー
〃	高 橋 一 也	(株)ウスマ地域総研	
〃	加 藤 優 平	(株)福山コンサルタント	
〃	柴 田 愛 美	(株)東コンサルタント	
〃	富 取 俊 馨	新和設計(株)	
〃	根 本 和 也	陸奥テックコンサルタント(株)	
〃	作 山 裕 貴	(株)昭和土木設計	
〃	油 谷 真 子	(株)三協技術	
〃	佐 藤 伴 哉	(株)菊池技研コンサルタント	
〃	小 柳 雄 基	日栄地質測量設計(株)	
〃	進 藤 あきほ	東邦技術(株)	

令和5年4月現在

3. 令和5年度の活動方針

(1) イメージWG

今年度も若手の会の活動をSNSに投稿し、フォロワー数の増加による建コン業界の認知度向上やイメージアップを目指していく。また新たな取り組みとして、ビーチクリーン等の清掃活動やPR活動に使用する建コン若手の会オリジナルTシャツの製作を予定している。

(2) 交流会WG

今年度は、昨年度まで実施していた「WEB交流会」「国交省交流会」に加え、コロナ禍により自粛していた「各県交流会」を開催し、若手技術者のつながりを作る機会の創出を目指して活動していく。

(3) 調査WG

昨年度実施した「若手技術者アンケート」の結果を基に、若手技術者のモチベーションアップにつながる活動を目指していく。また、学生との座談会やオープンキャンパスへの参加など、未来の担い手確保に向けた活動を行っていく。

4. おわりに

令和5年度は、本部や他支部など、全国の若手の会との交流も積極的に行い、好事例や課題の共有を行っていききたい。若手の会全体で、新しいことにチャレンジし、建コン業界のさらなる活性化に努めていきたい。



▲若手の会のメンバー

令和5年度支部定時総会

4月21日(金) 14:00からパレスへいあんにおいて令和5年度支部定時総会が開催されました。

4年振りに集合形式で開催し、会員107社中、出席70社、委任状34社、欠席3社で、出席合計が104社となり、過半数を超え総会は成立しました。



定時総会会場

冒頭、菅原支部長から挨拶をいただき議事に入りました。

議事は菅原支部長議長のもと、次の方々を議事録署名人として選出し議事に入りました。

中電技術C(株) 東北事務所長 杉山 敏夫 様
(株)福山C 東北支社長 長尾 康博 様
続いて、議案の審議が次のとおり進められました。

(1) 令和4年度事業報告について

事務局長から「事業報告1. 一般」について説明続いて対活委員長、広報委員長、総務部会長、地域コン委員長、技術部会長、情報部会長から「事業報告2. 事業」についてそれぞれの部会・委員会の事業内容説明の後、満場一致をもって承認されました。

(2) 令和5年度事業計画

菅原支部長から令和5年度の事業の基本方針として、

- ①東北地方の社会資本整備の担い手として、東日本大震災被災地の復興・再生を今後も支援していくと共に、住民に豊かな生活、地域の安全・安心が保てる社会資本整備の必要性を訴えていく活動を継続します。
- ②魅力ある建設コンサルタントを目指し、受発注者協同による健全な労働環境の改善による働き方改革を実現し、担い手が集う環境の整備を進めます。

- ③近年の災害の激甚化・頻発化を踏まえて、災害協定に基づく連携を強化するため、協定内容の見直しや訓練等を継続的に実施します。
 - ④プロポーザル方式及び総合評価落札方式において、技術力を重視した方式や地域企業の参加可能な方式などを具体的に提案することにより、入札契約制度の改善を推進します。
 - ⑤価格競争方式においては、地方自治体における低価格調査制度と失格基準の改善などを提案することにより、適正な競争制度の確立を目指します。
 - ⑥会員企業が優良な技術と知恵を持続的に提供し続けるために、技術者育成と更なる技術力向上に取り組みます。
 - ⑦アフターコロナを見据え、レクリエーションや現場見学会などリアルな会員交流の機会を増やすと共に、一般の方や学生の皆さんに向けて、建設コンサルタントの仕事や魅力について積極的に情報発信します。
 - ⑧不当な取引制限や不当な低価格競争等を排除し、コンプライアンスを遵守します。
- の提案があり、続いて、対活委員長、広報委員長、総務部会長、地域コン委員長、技術部会長、情報部会長からそれぞれの「事業計画」についての説明があり、満場一致をもって承認されました。

(3) 令和5年度収支予算について

事務局長から「収支予算」について報告の後、満場一致をもって承認されました。

(4) 令和4年度決算について

第1号議案 令和4年度決算及び令和4年度会計監査報告について事務局長から「決算報告」について説明があり続いて会計監査について柳橋監事から収支決算書及び諸帳簿等を監査した結果「その内容は適正かつ正確である。」との報告が行われ、満場一致をもって本案は承認可決されました。

(5) 役員を選任について

事務局長から「支部役員推薦者名簿」について説明があり、その後、満場一致をもって承認可決されました。
その後、支部長より新役員の紹介が行われました。

以上をもって令和5年度定時総会の議案全ての審議を終了しました。

9月1日「災害時対応演習」(リモート)を実施

建設コンサルタンツ協会では例年、「災害時行動計画」に基づく対応演習を実施しておりますが、今年も「防災の日」である9月1日(金)に、大規模地震の発生を想定した演習が実施されることとなりました。

東北支部でも、この機会に独自の「令和5年度災害時対応演習計画」を作成し、対応演習を実施することといたしました。

今年も日本各地で大雨による災害等が多数発生しており、東北支部管内においても、7月中旬に東北地方の北部を中心に大雨となりました。

秋田県でも大雨の影響により県内を中心に災害が多数発生し、東北地方整備局や秋田県からの応援要請が相次ぎ、「災害協定」に基づき対応いたしました。

多数の会員の皆様からご協力をいただき、現地へ速やかな派遣を行うなど対応にあたったところです。

このような状況が今後も各地で想定されることもあり、本年度は北海道日高沖を震源とするマグニチュード8.2の大規模地震が発生したとの想定のもと、北海道支部に災害対策現地本部を設置し、本部、現地本部及び支部をオンラインでつないで次の項目について演習を実施いたしました。

- 1) 災害対策支部の設置及び解散
- 2) 連絡対象会員からの被災状況の収集
(社員、社屋及び業務上に関わる被災等)
- 3) 調査員派遣対象会員との現地調査員派遣の協議
- 4) 災害対策本部との支部設置・解散等の連絡
- 5) 災害対策本部との現地調査員派遣要請対応
- 6) 発注機関(東北地方整備局)からの災害協定に基づく支援要請対応
- 7) 会員各社の独自計画に基づく演習、及び「災害発生時点検・確認事項一覧表」による点検等

なお、2) 3) 7) につきましては、東北支部独自の訓練として、あらかじめ選定した数社の会員様のご協力をいただき、支部に参集した役員と実際に電話やFAXによりやり取りを行ったものです。

会員の皆様におかれましては、今回の訓練をご参考としていただき、災害発生に備えて日頃から是非シミュレーション等していただきますようよろしくお願いいたします。

「連絡会員」及び「災害現地調査会員」にご指名されました会員各社には、ご多忙の中ご協力いただきありがとうございますとございました。



連絡会員に被災状況照会する災害対策東北支部員

連絡会員

アジア航測(株)、(株)ウエスコ、
基礎地盤コンサルタンツ(株)、国土防災技術(株)、
新和設計(株)、(株)総合技術コンサルタント、
中電技術コンサルタント(株)、(株)千代田コンサルタント、
(株)日本インシーク、日本工営都市空間(株)、
(株)東日本建設コンサルタント、(株)吉田測量設計

災害現地調査会員

(株)東コンサルタント、(株)新星コンサルタント、
創和技術(株)、大日本ダイヤコンサルタント(株)、
(株)東光コンサルタンツ、日本振興(株)

令和5年7月の大雨に伴う「災害協定」対応状況について

7月14日から16日にかけて、東北地方に梅雨前線が停滞し、前線に向かって暖かく湿った空気が流れ込んだ影響で、前線の活動が活発となり、東北地方の北部を中心に大雨となりました。

秋田県の複数の地点で、24時間降水量が観測史上1位の値を更新したほか、総降水量は秋田県の多い所で400ミリを超え、秋田県や青森県では平年の7月の月降水量を大きく上回る記録的な大雨となった所がありました。

また、7月18日から19日にかけても前線の活動が活発となり、岩手県や秋田県で日降水量が100ミリを超える大雨となりました。(内閣府の発表)

この大雨の影響により、秋田県内を中心に災害が多数発生し、当支部と締結している「災害協定」に基づき、東北地方整備局や秋田県からの応援要請が相次ぎました。

対応状況は、下記一覧表のとおりとなります。

今回の災害は「夏祭り」を間近に控えていたこともあり、早急な対応を求められた案件もあったと伺っております。

対応にあられた会員の皆様には大変ありがとうございました。

「災害協定」に基づく対応状況一覧（令和5年7月秋田大雨災害）

付番	要請月日	要 請 元	業 務 概 要	対応会社数
1	7/18 (火)	秋田県 秋田地域振興局	県道トンネルの被災設備調査、測量及び設計等	1社で対応
2	7/18 (火)	秋田県 秋田地域振興局	県道橋梁の被災状況調査、測量及び設計等	1社で対応
3	7/18 (火)	秋田県 秋田地域振興局	管内6河川の被災状況調査及び検討業務等	2社で対応
4	7/18 (火)	秋田県 秋田地域振興局 五城目町からの要請	町道橋梁の被災状況調査、測量及び設計等	1社で対応
5	7/21 (金)	東北地方整備局 湯沢河川国道事務所	河川被災箇所に係る浸透流解析3断面、 復旧対策設計等	1社で対応
6	7/27 (木)	秋田県 山本地域振興局	河川被災箇所に係る被災流量検討、雨量確率検討 及び河川改修効果の検討	1社で対応
7	7/28 (金)	秋田県 建設部 砂防課	①氾濫した16河川の資料作成等補助 ②管内5河川の降雨量評価、再現流量算出及び 断面作成等	1社で対応
8	8/2 (水)	秋田県 山本地域振興局	管内5河川の洪水量評価、河川整備方針の検討等	1社で対応
9	8/16 (水)	秋田県 秋田地域振興局	県道（6カ所）の被災状況調査及び応急対策調査・ 測量・設計業務等	2社で対応

[支部だより]

4月4日(火)

令和4年度会計監査
場 所/支部会議室

4月6日(木)

第1回役員会(参集及びWeb会議)
議 題/(1) 令和5年度支部定時総会について
(2) 各分会・委員会からの報告
(3) そ の 他

4月14日(金)

第1回若手の会(集合及びWeb会議)

4月21日(金)

令和5年度支部定時総会
場 所/パレスへいあん
議 題/(1) 令和4年度事業報告について
(2) 令和5年度事業計画について
(3) 令和5年度収支予算書について
(4) 令和4年度決算報告について
(5) 役員を選任について
そ の 他

集合形式での開催は4年振りの開催
会員 107社中 出席 70社 委任状 34社 欠席 3社

4月25日(火)

第1回広報委員会
議 題/(1) 令和5年度講演会について
(2) そ の 他

5月9日(火)

技術部会(構造専門委員会)

5月16日(火)

第2回役員会
議 題/(1) 意見交換会について
(2) 各分会・委員会からの報告
(3) そ の 他

5月17日(水)

第1回対外活動委員会(Web会議)
議 題/(1) 今年度の意見交換会日程調整について
(2) 各自治体の「BIM/CIM」活用状況について
(3) そ の 他

5月18日(木)

第1回情報部会
議 題/(1) 令和5年度事業計画について
(2) 講習会の開催方式について
(3) そ の 他

6月1日(木)

技術部会総会
場 所/パレスへいあん
議 題/(1) 令和4年度技術部会事業報告
(2) 令和4年度各専門委員会活動報告
(3) 令和5年度技術部会事業計画(案)及び予算
(4) そ の 他

6月2日(金)

第2回若手の会(集合及びWeb会議)

6月7日(水)～8日(木)

E E東北'23(参集及びWeb開催)
場 所/夢メッセみやぎ
来場者 2日間延べ人数 13,900名
出展者 385/技術数 1,035
(建コン支部会員 出展者43/技術数 120)
「学生等向け出店企業等を紹介」するマッチング広場に支部のブースを設置

6月9日(金)

宮城県防災訓練

6月13日(火)～14日(水)

青森県建設技術センター令和5年度「土質研修会」
へ講師派遣

講 師/沖野 清隆(応用地質(株))
山田 満秀(株)ダイヤC)
早乙女 勉(日本工営(株))
細谷 健介(新和設計(株))

支部だより

6月14日(水)

宮城県建設センター「基礎研修1～構造物の設計～
(LIVE)」へ講師派遣
講師/石井 一人 (パシフィックC株)

6月15日(木)

技術部会 (道路・構造打ち合わせ)

6月21日(水)

第3回役員会

議題/ (1) 本部・整備局の意見交換会について
(2) 各県との意見交換会について
(3) その他

6月21日(水)

宮城県建設センター「基礎研修2～土質の設計～
へ講師派遣
講師/沖野 清隆 (応用地質株)
山田 満秀 (株ダイヤC)

6月22日(木)

技術部会 (インフラメンテナンス専門委員会)

6月27日(火)

第2回対外活動委員会 (Web会議)

議題/ (1) 各自治体の「BIM/CIM」活用について
(2) 意見交換会について
(3) その他

6月29日(木)

第1回地域コン委員会 (Web会議)

議題/ (1) 本部地域コン委員会の報告
(2) リクルートパンフレット等の配布に
ついて
(3) その他

6月29日(木)

ふくしま市町村支援機構「成果品のエラー防止に
ついて (土木)」へ講師派遣
講師/石井 一人 (パシフィックC株)

6月30日(金)

若手の会定例会 in 岩手

7月4日(火)～6日(木)

ふくしま市町村支援機構「トンネルと地盤調査」
「地盤調査と橋梁設計」「橋梁上部工の設計演習」
「橋梁下部工及び基礎工の設計演習」へ講師派遣
講師/松山 一昭 (大日本ダイヤC株)
高津 茂樹 (株建設技術研究所)
石井 一人 (パシフィックC株)

7月6日(木)

技術部会 (環境専門委員会)

7月13日(木)～28日(金)

岩手県土木技術専門研修「一般構造物等」

へ講師派遣

講師/安藤 誠 (株オリエンタルC)
早乙女 勉 (日本工営株)
細谷 健介 (新和設計株)
向江 正夫 (株東京建設C)

7月13日(木)

第4回役員会

議題/ (1) 東北ブロック意見交換会について
(2) 各県意見交換会について
(3) その他

7月18日(火)

令和4年度東北地方整備局国土交通行政関係

功労者表彰式

東北地方整備局では国土交通行政関係功労者に対し
て表彰式を行っています。

本年度は優良業務施行会社として、次の会員の方々
が受賞されました。誠にありがとうございます。

【優良業務施行者】

いであ株 東北支店

鳴瀬川水系水害対策検討業務

(株)ウヌマ地域総研

米代川洪水痕跡調査

(株)エイト日本技術開発 福島事務所

国道399号伊達橋災害復旧外調査設計業務

(株)オリエンタルC 青森事務所

青森管内道路整備計画検討業務

(株)オリエンタルC 秋田事務所

能代管内事故対策検討業務

川崎地質株 北日本支社

鹿島台地区地盤対策検討業務

四十四田ダム再生ダムサイト右岸部地質調査

(株)菊池技研コンサルタント
南三陸沿岸国道管内道路設計業務

(株)協和コンサルタンツ 青森営業所
津軽道柏地区道路詳細設計業務

(株)建設技術研究所 東北支社
阿武隈川水系洪水予測高度化検討業務
阿武隈川上流河川整備計画等検討業務
内川等樋管詳細設計(その2)業務

国際航業(株) 秋田営業所
能代管内防災・土工構造物点検業務

国際航業(株) 山形営業所
置賜地区災害対策復旧設計業務

国土防災技術(株) 山形支店
赤川流域地質調査業務

(株)三和技術コンサルタント
高屋防災(古口中地区)用地調査等業務

セントラルコンサルタント(株) 秋田営業所
仙北地区道路概略検討業務

中央コンサルタンツ(株) 山形事務所
大石田・横山地区橋梁予備設計業務

中央コンサルタンツ(株)
仙台塩釜港仙台港向洋地区岸壁(-14m)取付部
外細部設計

(株)東京建設コンサルタント 福島事務所
阿武隈川上流地内道路詳細設計業務

日本工営(株) 秋田事務所
成瀬ダム地質検討業務

日本工営(株) 福島事務所
福島管内構造物点検補修設計業務

日本工営(株) 山形事務所
月山地すべり志津地区対策予備設計業務
長井ダム管内復旧対策検討業務

パシフィックコンサルタンツ(株) 東北支社
仙台都市圏幹線道路整備計画検討業務

パシフィックコンサルタンツ(株) 盛岡事務所
三陸国道管内交通網調査業務

(株)福山コンサルタント
郡山国道管内整備効果検討業務

(株)双葉建設コンサルタント
最上川上流村山右岸地区災害対応業務

(株)復建技術コンサルタント 山形支店
高島地区設計業務

三井共同建設コンサルタント(株) 青森営業所
岩木川災害調査等業務

三井共同建設コンサルタント(株) 東北支社
阿武隈川下流瓢石排水樋管詳細設計業務
赤川水系洪水予測システム改良検討業務

[災害対策功労者(団体)]

(株)双葉建設コンサルタント
令和4年8月3日からの大雨に伴い、被災直後の山形県川西町玉庭地区にて、UAVによる被災状況調査等を行い、TEC-FORCEの後方支援等を行うなど、早期復旧の支援に貢献した。

(株)田村測量設計事務所
令和4年8月3日からの大雨に伴い、被災直後の山形県飯豊町にてUAVによる被災状況調査等を行い、TEC-FORCEの後方支援等を行うなど、早期復旧の支援に貢献した。

(株)キタコン
令和4年8月9日からの大雨に伴い、被災直後の青森県鮎ヶ沢町にて、UAVによる被災状況調査等を行い、TEC-FORCEの後方支援等を行うなど、早期復旧の支援に貢献した。

(株)建設技術研究所
令和4年8月3日からの大雨に伴い、多数発生した法面崩落、土砂流出、路面冠水により二次被害の恐れがある状況で被災状況調査を実施したほか、復旧工事設計を迅速かつ的確に対応し、応急復旧の進捗に大きく貢献した。

国際航業(株) 仙台支店
令和4年3月福島県沖地震に関して、港湾関係での被害発生時における応急対策業務に関する包括協定書に基づき被災状況調査実施にあたり、早急な対応にて相馬港の緊急点検を行う事に貢献した。

(株)日本港湾コンサルタント 東北事務所
令和4年3月福島県沖地震に関して、港湾関係での災害発生時における応急対策業務に関する包括協定書に基づき復旧工法の検討に尽力し、相馬港の本復旧工事を行う事に貢献した。

7月20日(木)

情報部会(Web会議)

- 議 題 / (1) GIS講習会及びCIMハンズオン講習会について
(2) 各WGからの報告
(3) その他

支部だより

7月25日(火)

技術部会(部会長以上会議)

- 議 題／(1) 令和5年度講演会での演習について
(2) 大学へのリクルート活動について
(3) そ の 他

7月27日(木)

ふくしま市町村支援機構「新技術(1) BIM/CIM
(土木)」について講師派遣

講 師／佐久間 謙史(パシフィックC株)

7月31日(月)

東北ブロック(本部・整備局)意見交換会

東北地方整備局 山本局長 他19名

本部 中村会長 他13名

支部 菅原支部長 他13名

議 題

1. 担い手確保・育成のための環境整備
2. 技術力による選定
3. 品質の確保・向上
4. 「DX推進の環境整備」と「成長と分配の好循環の実現」

8月9日(水)

第3回対外活動委員会(Web会議)

- 議 題／(1) 各県との意見交換会について
(2) そ の 他

8月10日(木)

若手の会定例会 in 福島

8月22日(火)

技術部会WGミーティング

8月23日(水)

EE東北実行委員会(Web会議)

8月24日(木)

福島県土木部職員専門研修「監督業務(工事監理)」
へ講師派遣

講 師／兒玉 浩行(株)エイト日本技術開発

9月25日(金)

岩手県土木技術専門研修「橋梁／点検(診断)」
へ講師派遣

講 師／石橋 努(株)復建技術C)

8月29日(火)

経営者委員会(社長会)

場 所／パレスへいあん

- 議 題／(1) 「リクルートパンフレット」を活用した
コンサル業務説明会
(2) 意見交換会について
(3) そ の 他

講 話

①「国土交通行政をめぐる最近の話題」

講師：東北地方整備局企画部

技術調整管理官 佐藤 彰 氏

8月29日(火)

第2回広報委員会

- 議 題／(1) 令和5年度講演会について
(2) JCCA TOHOKUの編集について
(3) そ の 他

9月1日(金)

災害時対応演習[11:00～14:30]

11:00北海道支部管内においてマグニチュードの大規模地震が発生し、災害対策東北支部を設置したとの想定で災害対策支部員を招集、本部・各支部とWeb会議にて演習を行いました。

会員の被災状況を把握するため、予め決めていた連絡会員会社12社へ携帯電話により被害状況照会、会員より被害状況をFAXで受信。

また、被災現地への派遣のため、予め決めていた災害現地調査派遣会員6社と協議・派遣等の訓練を実施した。

9月1日(金)

若手の会定例会(集合およびWeb)

9月5日(火)

GIS実践講習会

場 所／PARM-CITY131 ANNEX 多目的ホール

主 催 本部 情報部会ICT委員会ICT普及専門委員会
支部 情報部会 受講者 12名

9月7日(木)～8日(金)

CIMハンズオン講習会

場 所／PARM-CITY131 貸会議室 4A

共 催 本部 情報部会ICT委員会CIM技術専門委員会
支部 情報部会 受講者 両日 各18名

9月11日(月)

6協会合同 コンプライアンス研修会配信テスト
(Web会議)

9月12日(火)

GIS実践講習会 (Web開催 [ライブ配信])
主 催 本部 情報部会ICT委員会ICT普及専門委員会
支部 情報部会 受講者 14名

9月12日(火)～15日(金)

岩手県土木技術専門研修「地質、道路、河川計画」
へ講師派遣

講 師/山田 満秀 (大日本ダイヤC株)
榊原 信夫 (川崎地質株)
今野 篤 (株東京建設C)
佐藤 亮 (株菊池技研C)
岡田 篤 (大日本ダイヤC株)
栗田 俊一 (株復建技術C)

9月13日(水)～14日(木)

福島県土木部職員専門研修「長寿命化計画」
へ講師派遣

講 師/石井 一人 (パシフィックC株)
三浦 俊史 (株近代設計)
山下 智士 (株復建技術C)

9月15日(金)

令和5年度コンプライアンス研修会 (Web配信)
場 所/事務局会議室
講 師/公正取引委員会事務総局
東北事務所長 白石 文男 氏
宮城県警察本部 サイバー犯罪対策課
課長補佐 津志田 浩孝 氏
主 催 (一社)建設コンサルタンツ協会東北支部、
(一社)宮城県測量設計業協会、
(一社)日本補償コンサルタント協会東北支部、
(公社)全国上下水道コンサルタント協会東北支部、
(一社)東北測量設計協会、
(一社)東北地質調査業協会 6団体の共催
出席者 約450名 (建コン会員 173名)

9月20日(水)～21日(木)

福島県農林水産部「農林土木技術研修 (中堅職員
研修2)」へ講師派遣
講 師/石井 一人 (パシフィックC株)

9月21日(木)

第3回情報部会 (Web会議)
議 題/(1) 各WGからの報告
(2) GIS講習会他各講習会の報告
(3) そ の 他

9月26日(火)～29日(金)

岩手県土木技術専門研修「地質、道路、河川計画」
へ講師派遣

講 師/山田 満秀 (大日本ダイヤC株)
榊原 信夫 (川崎地質株)
恵美 進一 (八千代E株)
村上 幸治 (株エイト日本技術開発)
岡田 篤 (大日本ダイヤC株)
東山 泰治 (中央C株)

9月27日(水)

令和5年度「道路・構造専門委員会合同技術講習会」
場 所/ハーネル仙台
主 催 技術部会 道路専門委員会・構造専門委員会
受講者 58名

9月28日(木)

第5回役員会
場 所/ハーネル仙台
議 題/(1) 支部役員の選任について
(2) 各県との意見交換会について
(3) そ の 他

9月28日(木)

山形県県土整備部「建設マネジメント研修Ⅱ
(応用編)」(オンライン研修併用)へ講師派遣
講 師/川上 浩一 (セントラルC株)
佐藤 拓弥 (セントラルC株)

JCCA TOHOKU 寄稿文募集

JCCA 読者の皆様には、本誌をご愛読いただきありがとうございます。

一般社団法人建設コンサルタンツ協会東北支部では、年2回（4月・10月）広報誌「JCCA TOHOKU」を発行させていただいております。

本広報誌の記事は、東北支部の広報委員が編集会議を経て会員企業や関係各位への原稿依頼を行い成り立っているところでございます。

そのうえで、編集者が把握できかねる情報も多々あると思われまますので、広く会員の皆様からの情報や、会員企業のお声を本誌でご紹介したく考えており、皆様からのご寄稿をお願いしているところでございます。

ご寄稿いただく記事内容といたしましては、以下を考えておりますが、これに限らず奮ってご寄稿をお願いいたします。

1. 技術特集（独自の技術や創意工夫、苦勞した設計等）
2. 海外紀行
3. 私の趣味（会員の皆さまより、ご自身の趣味をご紹介ください）
4. 我が社のPR（ご自身の会社のPRや紹介したい人物等）
5. 地域発信（ご自身の地域のホットな話題や地域行事、名所旧跡等）
6. 若手技術者、女性技術者、ベテラン技術者からの声
7. 技術士取得奮戦記
8. 部会活動報告（部会の活動、現場見学会等）
9. その他建コンに關係する話題

また、このような特集を組んでほしい等のご要望もございましたら、お気軽に広報委員にお声がけいただきますようお願いいたします。

「JCCA TOHOKU」は読者の皆様のご要望に応え、皆様のお役に立てる広報誌との位置づけを目指してこれからも発行いたして参りますので、皆様からの多くのご寄稿並びにご意見をお寄せいただきますようお願いいたします。

令和5年度 講演会

令和5年11月29日(水)14:00~17:00

(13:00 受付開始)

テーマ

「東北の未来を育む」



講師

村上 早紀子 氏

福島大学 経済経営学類 准教授

「まちを育む」

講演時間【14:20～15:20】



講師

須江 航 氏

仙台育英学園高等学校
硬式野球部監督

「ひとを育む」

講演時間【15:50～16:50】

会場 仙台市戦災復興記念館 記念ホール

参加対象者 どなたでもご参加いただけます。

(一般の方を優先とさせていただくため、建コン協会東北支部会員の皆様には、後日改めてご案内いたします。)

参加費 無料

定員 200名(先着順)

申込方法・申込先

PC・スマホから「建設コンサルタンツ協会東北支部」HPの「講習会の案内」にアクセスし、同講演会の「参加予約フォーム」に入力し、お申し込みください。

なお、申し込みが完了しますと、登録したメールアドレスに完了メールが届きますので、受信できるように設定をお願いいたします。

(サイトアドレス)

<https://jcca-tohoku.jp>

建コン 東北

検索



申込期日 令和5年10月16日(月)11:00～令和5年11月1日(水)12:00

(定員になり次第締め切らせていただきます。)

その他

本講演会は、一般社団法人建設コンサルタンツ協会CPDプログラムとして認定予定です。

会場案内

仙台市
戦災復興記念館

〒980-0804
仙台市青葉区大町2-12-1

広瀬通駅(西4)から徒歩約10分
大町西公園駅(東1)から徒歩約6分



主催/一般社団法人 建設コンサルタンツ協会 東北支部

後援/国土交通省東北地方整備局

河北新報社、日刊建設工業新聞社東北支社、
日刊建設通信新聞社東北支社、建設新聞社、
日本建設新聞社仙台総局

協賛/公益社団法人 土木学会東北支部

公益社団法人 日本技術士会東北本部

(順不同)

お問合せ

一般社団法人 建設コンサルタンツ協会 東北支部

Tel.022-263-6820 E-mail:thinfo@th.jcca.or.jp

一般社団法人 建設コンサルタント協会 東北支部 会員名簿

会員 10月現在 106社

会社名	事業所名	郵便番号・住所	電話番号
(株)アースデザインコンサルタンツ	本社	〒022-0007 岩手県大船渡市赤崎町字石橋前6-8	0192-27-0835
(株)アールバン設計	本社	〒963-0201 福島県郡山市大槻町字御前東46-26	024-961-7500
(株)アサノ大成基礎エンジニアリング	東北支社	〒981-3133 仙台市泉区泉中央2-25-6	022-343-8166
朝日航洋(株)	東北営業部	〒981-3131 仙台市泉区七北田字古内1-1	022-771-2382
アジア航測(株)	仙台支店	〒980-0811 仙台市青葉区一番町1-4-28	022-216-3553
(株)東コンサルタント	本社	〒970-8026 福島県いわき市平字正内町101	0246-23-8424
(株)アルファ水工コンサルタンツ	仙台事務所	〒985-0874 多賀城市八幡3-10-27	022-207-5300
いであ(株)	東北支店	〒980-0012 仙台市青葉区錦町1-1-11	022-263-6744
(株)ウエスコ	東北事務所	〒981-1106 仙台市太白区柳生1-11-8	022-797-5271
(株)ウヌマ地域総研	本社	〒010-0965 秋田県秋田市八橋新川向13-19	018-863-5809
エイト技術(株)	本社	〒031-0072 青森県八戸市城下2-9-10	0178-47-2121
(株)エイト日本技術開発	東北支社	〒984-0074 仙台市若林区東七番丁161	022-712-3555
(株)エー	仙台営業所	〒980-0003 仙台市青葉区小田原5-1-53-208	022-797-9718
応用地質(株)	東北事務所	〒983-0043 仙台市宮城野区萩野町3-21-2	022-237-0471
(株)オオバ	東北支店	〒980-0811 仙台市青葉区一番町2-2-13	022-261-8861
(株)オリエンタルコンサルタンツ	東北支社	〒980-0811 仙台市青葉区一番町4-6-1	022-215-5522
開発虎ノ門コンサルタント(株)	東北支店	〒983-0852 仙台市宮城野区榴岡4-5-24	022-292-5220
(株)片平新日本技研	東北支店	〒980-0811 仙台市青葉区一番町2-10-17	022-722-3130
川崎地質(株)	北日本支社	〒983-0852 仙台市宮城野区榴岡3-4-16	022-792-6330
基礎地盤コンサルタンツ(株)	東北支社	〒983-0842 仙台市宮城野区五輪2-9-23	022-291-4191
キタイ設計(株)	東北支社	〒980-0801 仙台市青葉区木町通2-6-53	022-343-5416
(株)キタコン	本社	〒036-8051 青森県弘前市大字宮川1-1-1	0172-34-1758
(株)キタツク	仙台事務所	〒980-0011 仙台市青葉区上杉1-1-37	022-265-1051
(株)橋梁コンサルタント	東北事務所	〒963-8024 福島県郡山市朝日1-28-14	024-953-3667
(株)協和コンサルタンツ	東北支社	〒980-0013 仙台市青葉区花京院2-1-14	022-266-6073
協和設計(株)	東北支店	〒983-0852 仙台市宮城野区榴岡4-6-1	022-742-3711
(株)近代設計	東北支社	〒983-0852 仙台市宮城野区榴岡4-12-12	022-207-2480
(株)ケー・シー・エス	東北支社	〒980-0014 仙台市青葉区本町1-11-2	022-224-1591
(株)建設環境研究所	東北支社	〒983-0852 仙台市宮城野区榴岡4-3-10	022-292-6012
(株)建設技術研究所	東北支社	〒980-0811 仙台市青葉区一番町4-1-25	022-261-6861
(株)コウキコンサルタント	本社	〒966-0902 福島県喜多方市松山町村松字小荒井道西405-10	0241-24-2701
(株)構研エンジニアリング	東北営業所	〒981-0933 仙台市青葉区柏木1-1-53-203	022-344-6231
(株)郡山測量設計社	本社	〒963-8041 福島県郡山市富田町字十文字54-3	024-952-5200
(株)国際開発コンサルタンツ	仙台支店	〒980-0811 仙台市青葉区一番町1-5-25	022-225-6201
国際航業(株)	東北支社	〒984-0051 仙台市若林区新寺1-3-45	022-299-2801
国土防災技術(株)	東北支社	〒984-0075 仙台市若林区清水小路6-1	022-216-2586
(株)コサカ技研	本社	〒039-1103 青森県八戸市大字長苗代字上碓田56-2	0178-27-3444
(株)コンテック東日本	本社	〒030-0122 青森県青森市大字野尻字今田91-3	017-738-9346
(株)寒河江測量設計事務所	本社	〒991-0003 山形県寒河江市大字西根字長面153-1	0237-86-5520
(株)サト一技建	本社	〒984-0816 仙台市若林区河原町1-6-1	022-262-3535
(株)三協技術	本社	〒980-0803 仙台市青葉区国分町3-8-14	022-224-5503
三協コンサルタント(株)	本社	〒994-0062 山形県天童市長岡北1-2-1	023-655-5000
サンコーコンサルタント(株)	東北支店	〒981-0912 仙台市青葉区堤町1-1-2	022-273-4448
(株)三洋コンサルタント	岩手営業所	〒020-0122 岩手県盛岡市みたけ5-16-34	019-645-6281
(株)三和技術コンサルタント	本社	〒995-0015 山形県村山市楯岡二日町7-21	0237-55-3535
柴田工事調査(株)	本社	〒012-0801 秋田県湯沢市岩崎字南五条61-1	0183-73-7171
(株)庄内測量設計舎	本社	〒999-7781 山形県東田川郡庄内町余目字三人谷地69-9	0234-43-2459
昭和(株)	東北支社	〒983-0852 仙台市宮城野区榴岡4-6-1	022-742-5301
(株)昭和土木設計	本社	〒020-0891 岩手県紫波郡矢巾町流通センター南4-1-23	019-638-6834
(株)新星コンサルタント	東北支社	〒980-0013 仙台市青葉区花京院2-1-11	050-5814-4959
新和設計(株)	本社	〒992-0021 山形県米沢市大字花沢880	0238-22-1170
(株)新和調査設計	本社	〒963-8016 福島県郡山市豊田町4-12	024-934-5311
JR東日本コンサルタンツ(株)	東北支店	〒983-0853 仙台市宮城野区東六番丁31-2	022-211-0872

会社名	事業所名	郵便番号・住所	電話番号
セントラルコンサルタンツ(株)	東北支社	〒980-0822 仙台市青葉区立町27-21	022-264-1923
(株) 創研コンサルタンツ	本社	〒010-0951 秋田県秋田市山王1-9-22	018-863-7121
(株) 総合技術コンサルタンツ	東北支店	〒980-0014 仙台市青葉区本町2-6-15	022-268-4191
創和技術(株)	本社	〒010-0951 秋田県秋田市山王6-20-7	018-863-4545
(株) 田村測量設計事務所	本社	〒990-0023 山形県山形市松波4-12-3	023-642-6644
第一復建(株)	仙台事務所	〒980-0014 仙台市青葉区本町1-2-20	022-722-3701
(株) ダイエツ	本社	〒965-0831 福島県会津若松市表町2-53	0242-26-1253
大日コンサルタンツ(株)	仙台事務所	〒980-0021 仙台市青葉区中央2-7-30	022-225-5626
大日本ダイヤコンサルタンツ(株)	東北支社	〒980-0021 仙台市青葉区中央1-6-35	022-261-0404
大和工営(株)	本社	〒996-0053 山形県新庄市大字福田字福田山711-43	0233-22-2422
(株) 地圏総合コンサルタンツ	仙台支店	〒980-0811 仙台市青葉区一番町4-1-25	022-261-6466
中央開発(株)	東北支店	〒984-0016 仙台市若林区蒲町東20-6	022-766-9121
(株) 中央技術コンサルタンツ	東北支店	〒981-3133 仙台市泉区泉中央1-13-4	022-375-6787
中央コンサルタンツ(株)	仙台支店	〒980-0021 仙台市青葉区中央2-9-27	022-722-2541
中央復建コンサルタンツ(株)	東北支社	〒980-0011 仙台市青葉区上杉2-3-7	022-267-1459
中電技術コンサルタンツ(株)	東北事務所	〒980-0802 仙台市青葉区二日町14-15	022-397-8173
(株) 長大	仙台支社	〒984-0051 仙台市若林区新寺1-2-26	022-781-8628
(株) 千代田コンサルタンツ	東北支店	〒980-0014 仙台市青葉区本町1-11-2	022-214-6261
(株) テイコク	東北支店	〒981-0933 仙台市青葉区柏木1-1-53-202	022-343-0956
(株) 東京建設コンサルタンツ	東北支社	〒980-0811 仙台市青葉区一番町2-10-17	022-222-8887
東京コンサルタンツ(株)	東北支店	〒980-0011 仙台市青葉区上杉1-17-20	022-265-3891
(株) 東建工営	本社	〒981-1227 名取市杜せきのした1-2-7	022-383-9811
(株) 東光コンサルタンツ	仙台支店	〒980-0014 仙台市青葉区本町2-9-8	022-264-1578
(株) トーニチコンサルタンツ	東北事務所	〒980-0021 仙台市青葉区中央2-7-30	022-262-0243
(株) ドーコン	東北支店	〒980-0811 仙台市青葉区一番町4-1-25	022-225-2860
東邦技術(株)	本社	〒014-0041 秋田県大曲市大曲丸子町2-13	0187-62-3511
(株) 東北開発コンサルタンツ	本社	〒980-0804 仙台市青葉区大町2-15-33	022-225-5661
(株) 東北構造社	本社	〒980-0014 仙台市青葉区本町2-2-3	022-227-1877
(株) 土木技術研	本社	〒020-0839 岩手県盛岡市津志田南2-16-20	019-638-8131
日栄地質測量設計(株)	本社	〒970-8026 福島県いわき市平字作町1-3-2	0246-21-3111
(株) 日水コン	東北支店	〒980-0014 仙台市青葉区本町2-2-3	022-222-1101
(株) 日本インシーク	東北支店	〒983-0852 仙台市宮城野区榴岡4-5-24	022-724-7530
日本工営(株)	仙台支店	〒980-0803 仙台市青葉区国分町3-1-11	022-227-3525
日本工営都市空間(株)	仙台支店	〒980-0014 仙台市青葉区本町1-13-22	022-716-6646
(株) 日本構造橋梁研究所	東北支社	〒980-0014 仙台市青葉区本町1-11-1	022-713-6657
(株) 日本港湾コンサルタンツ	東北事務所	〒980-0013 仙台市青葉区花京院1-1-5	022-215-9051
日本振興(株)	東北支店	〒980-8485 仙台市青葉区中央1-2-3	022-797-0391
(株) ニュージェック	東北支店	〒981-0912 仙台市青葉区堤町1-1-2	022-301-7611
パシフィックコンサルタンツ(株)	東北支社	〒980-0811 仙台市青葉区一番町1-9-1	022-302-3940
(株) パスコ	東北事業部	〒983-0864 仙台市宮城野区名掛丁205-1	022-299-9511
(株) 東日本建設コンサルタンツ	本社	〒974-8261 福島県いわき市植田町林内26-5	0246-63-6063
(株) 福田水文センター	東北支店	〒980-0014 仙台市青葉区本町3-6-18	022-281-8525
(株) 福山コンサルタンツ	東北支社	〒980-0802 仙台市青葉区二日町13-17	022-262-0118
富士コンサルタンツ(株)	仙台支店	〒982-0013 仙台市太白区太子堂10-20	022-395-6216
(株) ふたば	本社	〒979-1113 福島県双葉郡富岡町曲田55	0240-22-0261
(株) 双葉建設コンサルタンツ	本社	〒996-0002 山形県新庄市金沢字谷地田1399-11	0233-22-0891
(株) 復建エンジニアリング	東北支社	〒980-0802 仙台市青葉区二日町11-11	022-267-2765
(株) 復建技術コンサルタンツ	本社	〒980-0012 仙台市青葉区錦町1-7-25	022-262-1234
復建調査設計(株)	東北支店	〒980-0014 仙台市青葉区本町1-11-1	022-723-5830
三井共同建設コンサルタンツ(株)	東北支社	〒980-0021 仙台市青葉区中央4-10-3	022-225-0489
陸奥テックコンサルタンツ(株)	本社	〒963-8011 福島県郡山市若葉町17-18	024-922-2229
八千代エンジニアリング(株)	北日本支店	〒980-0802 仙台市青葉区二日町1-23	022-261-8344
(株) 吉田測量設計	本社	〒020-0861 岩手県盛岡市仙北1-3-13	019-635-1740

編集後記

令和5年もアッ！ という間に月日が過ぎ、気が付くと10月を迎えようとしています。

本格的に秋を感じる涼しい日が続くこの季節は、食べ物は「栗」「柿」「さつまいも」「かぼちゃ」「銀杏」、イベントは「紅葉散策」「芋煮会」「運動会」「スポーツの日」、行事は「ハロウィン」「衣替え」など、この季節を楽しみにされていた方も多いのではないのでしょうか。

ただ、日本の四季が無くなるとの話もあり、今年の夏は猛暑続きで野菜や果物への悪影響、ゲリラ豪雨による川の氾濫や土砂災害などの被害もあり、我々の生活を脅かす出来事が続いております。

そこで、東北の明るい未来を見据え、広報委員会では11月に「東北の未来を育む」をテーマに講演会を開催致します。

福島大学経済経営学類准教授「村上早紀子」様、仙台育英学園高等学校硬式野球部監督「須江航」様を講師として招き、当協会からも技術部会長が参加し、色んな角度からの「育む」をご紹介します。

建設コンサルタント業界にとって、発注者の皆様や住民の皆様との関係を「育み」、東北地方の未来のためにお役に立てる講演内容となることは間違いないでしょう。

皆様のお越しをお待ち申し上げますと共に、今後もお役に立てるような講演会を計画して参ります。

最後になりますが、本誌にご寄稿頂きました皆様のご理解とご協力に対し、感謝を申し上げます。

(令和5年8月 長谷川 悟 記)

JCCA TOHOKU Vol.67

発行	一般社団法人 建設コンサルタンツ協会東北支部 〒980-0803 仙台市青葉区国分町3-6-11 アーク仙台ビル TEL 022-263-6820			
編集	広報委員長	菊池透	副委員長	菊田博己
	副委員長	上野圭祐	広報委員	相澤達也
	広報委員	大友正樹	〃	樋口章大
	〃	大場秀行	〃	遠藤敦
	〃	長谷川悟	〃	海藤剛
	〃	安井栄晃	〃	遠藤康郎
	〃	海老名俊之	〃	畑山満
	〃	佐藤正隆		
事務局	淀川政晴・小川みゆき			
印刷	ハリウコミュニケーションズ株式会社 〒984-0011 仙台市若林区六丁の目西町2-12 TEL 022-288-5011			



.....明日への風、東北から.....

ロゴのデザインについて

三本の流れは、東北から発進する新しい風と〔文化〕を象徴したものであり、その中の白い三角は東北独自の〔風土〕と〔歴史〕をイメージしたものである。